企画・取材・発行
射水商工会議所 魅力発信プロジェクト
八嶋祐太郎（魅力発信プロジェクトリーダー）
吉久 磨（しんみなと歴史ヒストリアプロジェクトリーダー）
島倉晃一（事務局）、買場啓太（事務局補佐）

（事務局）射水商工会議所
〒934-0011 射水市本町 2－10－35
TEL：0766-84-5110

発行日
2016年9月25日

放生津

新湊 曳山 さんぽ

新湊歴史ヒストリア Volume 3

引用・参考文献
「新湊市史」新湊市史編さん委員会
「新湊の曳山」新湊市教育委員会
「新湊曳山協議会 設立50周年記念誌」新湊曳山協議会
「富山県射水市放生津八幡宮築山行事・曳山行事調査報告書」
射水市教育委員会
「しんみなとの歴史」新湊市
「荒屋町の曳山史」荒屋町曳山委員会
「四十物町曳山物語」橋詰博一

協力
放生津八幡宮、新湊曳山協議会、
13町の曳山保存会・曳山委員会のみなさん、
四日曽根自治会、射水市、射水市教育委員会、
射水市新湊博物館、射水市観光協会

制作
株式会社 ワールドリー・デザイン

町民の総力を大結集！
伝統の曳山祭りの
深さと広さを知る。

勇壮華麗な祭りは
謙虚でひたむきな
祈りが支えている

表紙の写真

毎年の曳山巡行の順番を決める

鬮取り式（くじとりばんづけのみまつり） 鬮取番付御祭

開催日：8月はじめの大安

一番山と決まっている「古新町」以外の12町が、【前山】（2～7番）と【後山】（8～13番）に分かれ、クジ取りにより巡行順を決める、放生津八幡宮の神事。新湊曳山協議会の役員を始め13町の曳山総代、市内の有力者らが、事故・ケガのない、厳かかつ賑々しい祭りとなるよう祈る。

本冊子の一部または全部の無断転用、複写、複製を禁じます。掲載情報は2016年9月現在のものです。

普段の暮らしが不断の祈りに。町ぐるみで守り、伝える魂の拠り所。

一番山・古新町。赤花の理想的な発色を求め、素材と切り方を工夫した新しい花山は曳山委員の苦心＆自信作。（2016/7/17 古新町曳山格納庫）

9年ぶりに花山の花を新調する荒屋町。花づくりは町民総出で。（2016/7/24 荒屋公民館）

放生津の曳山の特徴

❶ 放生津八幡宮の秋祭りの一部

9月30日、海から来られた神霊を境内の老松にお宿りいただいて行われるのが、10月2日の本祭、築山行事です。1日には神輿に乗って氏子らを巡り、翌2日、築山行事と放生会が行われ、3日に報賽祭で幕を閉じる秋季例大祭。あくまでも**神輿のお供**だった曳山が、より盛大に豪華になって今に至りますが、本来は**歴史ある荘厳なお祭りの一部**なのです。

❷ 県内で2番目に古い曳山祭り

高岡の御車山に次いで古い放生津の曳山。享保6年（1721）、**八幡宮が放生津総社の格式で再建されたのを機に、8本の曳山が揃う賑やかな祭りに**なりました。当時は、春は「高岡の曳山」、秋は「放生津山」と言われたそうです。

❸ 花山と提灯山の2種類ある

昼は大きな花傘が華麗な「花山」、夜は万燈の美しい「提灯山」と、昼夜2つの顔を楽しめる放生津の曳山。お囃子も昼と夜ではガラリと変わります。

❹ 貴重な技術、DIY精神の宝庫

多くの曳山は、放生津八幡宮の宮大工、高瀬一門の棟梁・門人らが中心となって設計・建造されました。放生津には彫りの名人・矢野啓通もいました。さらに、高岡の金工、井波の彫刻、城端の漆芸など地域の匠たちの技術で仕上げられた曳山は、動く芸術品。簡単な修理や改修は地元の建具屋さんがすることも少なくありませんでした。

❺ 美談～騒動まで、エピソードの宝庫

密集地の狭い道を行き交う曳山。町内間で事情を汲み取って心憎い配慮をし合ったり、競い合いやすれ違いが、ケンカや騒動に発展したり…。その逸話は限りがありません。

❻ 町民が知恵と汗と金を出して守る

曳山を1回出すと約百万円かかると言われます。維持・保存だけでも年間数百万円。大きな修理が入ったり曳山蔵を新設したりすれば数千万円！これらは町民たちが計画し、知恵や汗を出し合い準備・負担しているのです。

366年の伝統を持つ曳山は、町民の力と誇りの象徴。圧倒的な立派さゆえに、町ぐるみで守り、愛してきた。

富山県射水市・新湊地区。毎年9月30日～10月3日に渡って行われるのが、放生津八幡宮の秋祭りです。海から神様をお迎えし、先祖の霊とともに“祭る”のが、主目的。魂迎式→神輿渡御→築山祭→放生会→報賽祭と、4日間にわたる壮大な行事の中の一部、各町の氏子を巡る神輿のお供として曳山を連ねたのが、曳山祭りの起源です。

古くは慶安3年（1650）、古新町の曳山が放生津八幡宮の神輿渡御に供奉したのがはじまりで、今のように13町13本の曳山が揃ったのは文久2年（1862）のことでした。

2016年には366年を迎える曳山祭り。町民たちの拠り所として、時代時代を反映しながら改善・改修・改造を施され、様々な歴史を重ねて、今も現役バリバリで引き継がれている13本の曳山。これら古くて豪華な文化財は、祭り当日の安全な巡行だけでなく日頃の維持・管理にも大変な労力がかかります。だからこそ、曳山を持つ山町の人々は、日々の暮らしの中で、少しずつ力を出し合い、常に曳山の準備をしているのです。1年に1度の祭りのために、祭り以外の日全部で準備していると言っても過言ではないほど。勇壮華麗な曳山を支えているのは、ほっこりとした人々のふれあいと協力、地道な努力と工夫なのです。さあ、曳山の背景を知る旅に出かけましょう！祭りがもっと楽しくなりますよ♪

曳山祭りカレンダー

8月 はじめの大安

鬮取り式

一番山の古新町以外の12町が、「前山」(2〜7番)と「後山」(8〜13番)に分かれ、クジ取りにより巡行順を決めます。新湊曳山協議会の役員を始め13町の曳山総代、市内の有力者らが、事故・ケガなく、賑々しい祭りとなるよう祈ります。この日を境に、曳山の点検・整備やお囃子の練習など、各町で祭りの準備が本格化します。

9月 ごろ〜

お囃子練習

9月に入ると、各町内の公民館などでお囃子の練習が始まります。祭りの近づく中旬以降は毎晩のようにお囃子が鳴り響きます。

4月	役員会(毎月2回:5日、20日)
5月	総会
7月	第1回総代会
8月	鬮取り式
9月	第2回総代会、関係諸団体打合せ
10月	役員会
11月	第3回総代会
1月	第4回総代会
3月	第5回総代会

曳山協議会

昭和34年(1959)に設立。各町の総代や長年の曳山関係者らを中心に、文化財と伝統神事としての曳山の巡行の統制・運営など協議。曳山のルート決め、最近では映画のロケの撮影協力や観光振興に向けた取り組みも行われています。

9月25日 ごろ

曳山組立、王様ご出座

祭りの5日前には、王様と前人形のご出座、併せて曳山の組み立て、飾り付け、調整を行います。最近は分解せずそのまま格納できるようになったため、5日前に行うところが多いようですが、昔は、10日前に組み立てていました。また、9月下旬に町内曳きや子ども曳きを行う町内もあります。

9月30日 17:00〜

魂迎式 放生津八幡宮 秋季例大祭

別火を焚いて境内を浄めた後、海上から御祖の神(代々の先祖たち)の御霊を「御舟代」に招き、さらに松明の先導で境内東側の老松を依り代としてお迎えします。御霊は10月2日の早朝までこの依り代に宿られます。

9月30日 夜

お祓い、宵祭り

曳山供奉の前夜には、曳山巡行の安全祈願のお祓いの後、山蔵の前で宵祭りを行う町内も少なくありません。ふるまいを行う町内も多いので、山蔵を巡るなら前日の夜がオススメです！

10月1日 8:30〜

神輿渡御、曳山供奉 放生津八幡宮 秋季例大祭

八幡宮から神輿が出て、町内を練りまわる準大祭です。この神輿の渡御にお供するかたちで曳山が巡行します。朝、お祓いを受けた各町の曳山(花山)が、氏子のもとをまわります。曳山を動かすのも大変ですが、お神輿とともに歩きまわる神主さんたちも大変です。

10月2日 5:00〜 日没

築山行事 放生津八幡宮 秋季例大祭

早朝の飾り付けから始まる築山行事。八幡宮の総代らが集まり、神職とともに、主神である姥神と四天王、お供え、飾り人形を配置します。
飾り付け終了後直ちに築山祭(大祭)が行われます(大祭はあっという間に終わります)。飾り人形は客人とも呼ばれ、総代らが毎年テーマを決めて作っているもの。曳山の上に乗っている王様は、この飾り人形が影響を与えたものだそう。築山は夕方まで展示されています。

10月2日 以降

曳山片付け

山蔵が整備されたので翌日分解する町はなくなりました。片付けや祝儀計算などを行い、慰労会となります。

10月2日 10:50〜 12:00

放生会 放生津八幡宮 秋季例大祭

生類供養の祭り。「放生津」の地名もこれに由来すると言われる大切なお祭りです。祭壇には生きた魚の入った水鉢と、生きた鳥の入った鳥かごが供えられます。祝詞や舞、玉串が捧げられた後、鳥は境内にて放たれ(11:00〜11:30ごろ)、魚は内川、東橋のたもとにて放流され(11:30〜12:00)ます。すぐ終わってしまうので見逃しにご注意！

10月3日 10:00〜

報賽祭 放生津八幡宮 秋季例大祭

秋季例大祭が無事終わったことを報告・感謝するお祭り。これが済むと直会となり、4日間に渡ったお祭りが幕を閉じます。

曳山祭り年表

1770 明和7年 合鍵事件

高岡から出向してきた神主と地元の氏子が神社の管理をめぐって争いとなり、怒った神主が祭礼の中止を一方的に宣言。神主は帰り、神殿は「鍵止め」となり、数年に渡って放生津の祭りができなかった。

1775 安永4年 安永の曳山騒動

高岡の職人のもとへ修理に出されていた放生津曳山を見た人々が、高岡御車山の由緒正しき御所車のような車輪だと加賀藩に抗議したのをきっかけに、1776年まで続いた騒動。高岡奉行所と射水郡奉行所も対立関係となり、魚津代官所が仲介をする事態に発展した。1775年「車輪に板を打ち付けて曳く」ことを条件に、祭りが行われたが、高岡の曳山方らが検分しに来たときに、板がはずれ落ち、差車が見えていた。これに激怒した高岡の一行が鳶口を振り回し、来町中だった魚津の役人に逮捕・投獄された。放生津の全11町の車輪は魚津代官所に接収され、城端の曳山も取り調べを受け全車輪が接収され、城端の職人の多くが召し出され、禁牢を申し渡された。放生津の全町の曳山役員らは、魚津盗賊改奉行の厳重な取り調べを受け、7町の車輪が没収となった。放生津、城端の板車が一切禁止され、石動の曳山も中止が命じられた。

1986 昭和61年 新湊旋風

第58回のセンバツで、新湊高校がベスト4まで勝ち上がった。バス121台を連ね、市民の4人に1人が甲子園へ応援に行って以降、甲子園にはバス50台までの制限ができた。(曳山の世話役たちから「曳山と野球の話ならいくらでも」という言葉をよく聞いた。ベースは一緒のようだ)

慶長14(1609)	【高岡】御車山できる
慶安3(1650)	古新町曳山創設
延宝4(1676)	8月15日放生津八幡宮神事に曼陀羅寺より引山でる
元禄5(1692)	奈呉町曳山できる、中町曳山できる
正徳5(1715)	新町曳山できる
享保2(1717)	放生津八幡宮 社殿、寄り回り波で大破 東町曳山できる
享保3(1718)	四十物町曳山できる、【城端】城端町屋台創設
享保6(1721)	放生津八幡宮 本殿、拝殿竣工 三日曽根曳山できる、立町曳山できる
寛延3(1750)	放生津八幡宮の神輿が再造される(現存)
明和7(1770)	荒屋町曳山できる 放生津八幡宮 合鍵事件で5年間神輿渡御、曳山供奉なし
安永2(1773)	長徳寺曳山できる
安永4(1775)	曳山騒動おきる
安永6(1777)	【氷見】曳山創設
天明5(1785)	法土寺町曳山 修理
寛政元(1789)	紺屋町曳山できる 【八尾】曳山創設
享和3(1803)	放生津八幡宮、神輿 修理(塗直し)
文化年間	【伏木】曳山創設
文政4(1821)	放生津 湊橋(おたすけ橋)できる
弘化2(1845)	放生津八幡宮 類焼。
文久2(1863)	南立町曳山できる
文久3(1863)	放生津八幡宮 竣工
明治6(1873)	放生津八幡宮秋季例大祭を9月15日に
明治10(1877)	【大門】曳山できる
明治37(1904)	放生津八幡宮秋季例大祭を10月1日に
昭和15(1940)	戦時中ながら皇紀2600年を祝し曳く(提灯山は曳かず)
昭和22(1947)	曳山復活!
昭和26(1951)	射水郡新湊町から新湊市へ
昭和61(1986)	第58回選抜高等学校野球大会で新湊高校がベスト4に
平成17(2005)	射水郡の4町村と新湊市が合併し、射水市が発足
平成26(2014)	富山県指定無形民俗文化財に
平成27(2015)	第35回全国豊かな海づくり大会にて曳山展示し、 天皇皇后両陛下がご覧になられる
平成28(2016)	放生津の曳山を題材にした 映画『人生の約束』公開

最初、例大祭は 8/15

旧暦から新暦に変わったことにより 明治の始め、9/15に。

海運、漁業の人々が仕事に出たまま帰れない時期だから 現在の 10/1に。

1721 享保6年 古新町が不動の一番山に!

大津波で大破した八幡宮が再竣工し、8本の曳山が揃った年。創始の古新町はクジ抜けの一番山として優遇されていたが、それを不服とした他町の提案により、全山で「鬮(くじ)取り」をした。結果、古新町が一番を引いたことから、鬮抜け一番山がここで不動のものとなった。古新町の代表のクジ運、恐るべし!

1877 明治10年 奈呉町VS新町 押し込め合戦

1852年、藩主・前田斉泰の一行が八幡宮の台場予定地の巡検で放生津を訪れた際、奈呉町の人々は道を清掃し幕を吊るし歓迎準備をしていた。しかし、新町を境に一行のルートが変わったことで不満を募らせ、15年後の祭りで新町山を民家に押し込め、大破させた。翌年、新町の人々が奈呉町山を押し込め、反撃。これが引き金で嫁婿の離婚騒ぎも起きたとか。今はそんな反目合戦はないので、ご安心を。

1882 明治15年 法土寺VS新町 提灯山の騒動

立町の三叉路で、法土寺山が新町山に突き当てて争いとなり、新町山が報復して引き上げ、それをさらに法土寺山が追いかけるということがあった。紺屋町から神楽橋までの間で多くの負傷者が出たため、翌年の提灯山の中止が命令された。

1899 明治32年 東町山、内川に落ちる

最も大きく重量のある東町山が、西橋から内川に落ちた。

1932 昭和7年 奈呉町VS法土寺 屋根石騒動

古新町の四ツ角で、屋根石を相手方の曳山に投げ込む騒動が。昭和9年にも横町の十字路で山を突き当てる、2年越しの大騒動となった。

大正初期の曳山

1892 明治25年 古新町VS荒屋町、東町

三日曽根で、古新町山が荒屋山に付き当て、民家の一部を破壊。荒屋山から救いを求められた東町山は古新町山の側面を突いて大破させた。多くのけが人を出し、警察が仲裁役をしてようやく曳き分かれたそうだ。

戦争や災害の時は曳かなかった

- 明治27(1894)年 日清戦争のため
- 明治37(1904)年 日露戦争のため
- 明治45〜大正元(1912)年 明治天皇崩御のため
- 大正12(1923)年 関東大震災のため
- 昭和12(1937)〜21(1946)年 日中戦争→第二次世界大戦のため
- 平成元(1989)年 昭和天皇崩御のため

火災、水害、浪害、事故、修理など、各町内の事情によって巡行を遠慮することも少なくありません。13本揃った曳山巡行が見られるだけでも、有り難いことなのですね。

曳山構造図

花山 Hana-yama

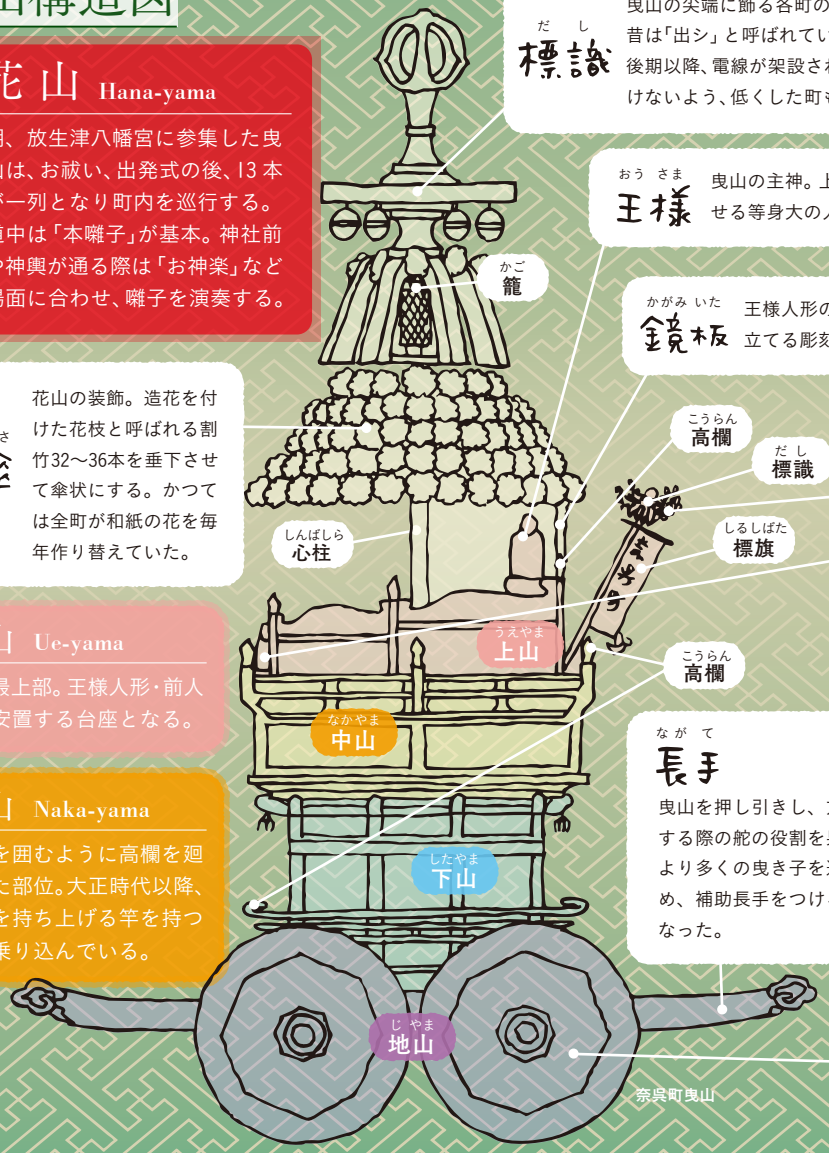
朝、放生津八幡宮に参集した曳山は、お祓い、出発式の後、13本が一列となり町内を巡行する。道中は「本囃子」が基本。神社前や神輿が通る際は「お神楽」など場面に合わせ、囃子を演奏する。

標識（だし）
曳山の尖端に飾る各町のシンボル。昔は「出シ」と呼ばれていた。明治後期以降、電線が架設され、引っ掛けないよう、低くした町もあった。

王様（おうさま）
曳山の主神。上山に乗せる等身大の人形。

鏡板（かがみいた）
王様人形の背後に立てる彫刻板。

花傘（はながさ）
花山の装飾。造花を付けた花枝と呼ばれる割竹32〜36本を垂下させて傘状にする。かつては全町が和紙の花を毎年作り替えていた。



奈呉町曳山

上山 Ue-yama

曳山最上部。王様人形・前人形を安置する台座となる。

中山 Naka-yama

上山を囲むように高欄を廻らせた部位。大正時代以降、電線を持ち上げる竿を持つ人が乗り込んでいる。

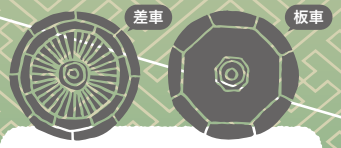
長手（ながて）
曳山を押し引きし、方向転換する際の舵の役割を果たす。より多くの曳き子を連ねるため、補助長手をつけるようになった。

提灯山 Chochin-yama

夕方、花山の巡行が終了すると、心柱から花笠を下ろし、上山に提灯台を組む。囃子は、雑曲と呼ばれる本囃子以外の賑やかな曲が中心となり、曳き子の気勢が一層高まる。

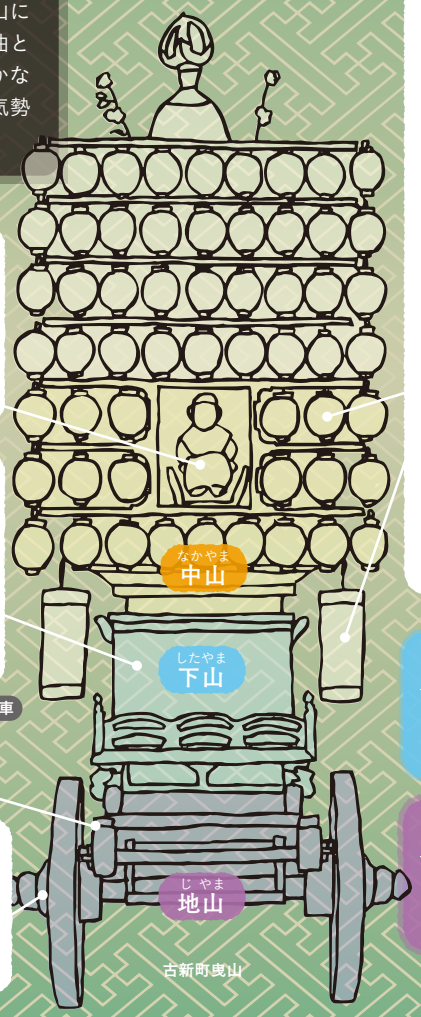
前人形（まえにんぎょう）
王様に対する配神として、上山か中山の前面に安置するからくり人形。「チンチコ」とも呼ぶ。

幔幕（まんまく）
下山の中が見えないように覆い隠す布。御簾や建具を用いる町もある。江戸時代には赤一色の無地が多かった。



車輪（しゃりん）
車輪は、輻（や：スポーク）のある差車と、板をつないで作った板車の2種類がある。

提灯（ちょうちん）
提灯台は上山の四隅に建てられた柱と、町名や標識の模様をあしらった提灯を吊るした横木とを組み合わせて構成する。丸形提灯の数は明治〜昭和初期には150個程度だったが、近年はおよそ250個。提灯台の最下段に町名の書かれた小田原提灯を四隅に吊る。提灯は、もとは紙製で、灯りにはローソクが使われ、角を廻る振動で火が消えたり、提灯や山体に燃え移ったりした。今はビニール・ナイロン製になり、灯りも電球となった。ここ数年、白熱電球からLED電球に変更する町内が多い。



古新町曳山

下山 Shita-yama

囃子方が乗り込む部位。幔幕や御簾で覆い隠す。

地山 Ji-yama

曳山の最下部。車輪・車軸・長手で構成される。

用語解説

「まつり」ではなく…
まっつん
「祭り」は「まっつん」や「まっつり」と言われます。「ま」を力強く発音するのがポイント。

曳くとはあまりいいません
つながる
曳山を曳くことは、「つながる」と言います。神や人々との精神的なつながりも感じさせる言葉。

「弥栄（いやさか）」を願うかけ声
イヤサー
ますます栄えることを意味する「弥栄」が語源。威勢のいいかけ声は言えば言うほど縁起がいい！

出発のときのかけ声は…
ホーランスイター
止まっている曳山を曳き出す際に誘導責任者が使う言葉。「ほら曳いた」が語源と言われます。

ご祝儀のお返しはこのお囃子
チンチコ
花（祝儀）が出された家の前で曳山を止め、前人形の動きに合わせて演奏する囃子曲のこと。

曳くときによく使います
おらえて
「おらえて」（P21参照）とは「抑えて」や「じっくり焦らずに」と、力や気持ちを抑制する意味があります。

1：花山（2014年、撮影・提供：新湊曳山協議会）、2：提灯山、3：前人形、4：車輪
★2〜4の3点 撮影・提供：古新町曳山委員会

13本の先頭を飾る「元祖の山」。誇らしくゆるぎない、一番山

古新町（ふるしんまち）

地元の人たちは「ふるじんまち」と呼びます

Furushinmachi

Point 1 誇り高き一番山

Point 2 先頭なのでルート取りが命

Point 3 大勢の人がいる山

2000年に350周年を迎えた、放生津でもっとも古い歴史をもつ曳山。古新町は「鬮除け一番山」なので、クジを引きません。ほかの12町は順番が変わりますが、古新町は常に曳山巡行の先導を務めます。誇らしき一番山であるからこそ、ルート取りや曳き方など、他町の模範としての意識や責任感は並々ならぬものがあります。安全でスムーズな巡行のため、細かな役割分担や確認・練習などの影の努力があります。

DATA

創建 慶安3年（1650）　再でき 元禄10年（1697）

王様 諸葛孔明
文政5年（1822）辻 丹甫 作。
中国・三国の蜀漢の天才軍師。

前人形 唐子の太鼓叩き
からくり人形。江戸期の佳作。

鏡板 青海波に亀乗り仙人
大漁と航海安全を祈願。
辻 丹甫 作。

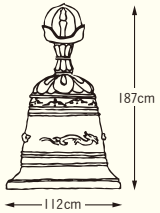
車輪 差車（32本、後光型）
もとは板車。現在のものは大正11年（1922）新調。直径は162cm。

幔幕
（正面）鈷鈴に唐子
（側面）花車に唐子遊び
現在のものは平成12年（2000）、同じデザインで作りかえ。

標識解説

独鈷の鈴（どっこすず）

通称 ふうりん、かね



鈷鈴（これい）とは、密教法具の一種で煩悩を打ち払う意味がある。一番山として、曳行の障害の除去と古新町の「古」の形、鈴を「振る」をかけている。昔の標識は、高岡の名工辻丹甫の作。提灯山に付け替えてもしっかりと見えるよう、近年、標識の位置を高くした。

もとは辻 丹甫作。昭和31年（1956）新調。
作者：加門甚一　塗り：室谷繁安

古新町曳山委員会の
＼みなさんに伺いました／

わざわざクジ抜かしてもろて、いつも一番で曳かせてもろとる。そうやから、かっこ悪い曳き方なんかできんやろ。

古新町東部、中部、西部の3自治会の代表者で構成される古新町曳山委員会。古新町は最盛期に500世帯以上あったという大きな町。今は250世帯弱となりましたが、曳山を持つ13町の中で最も住民の多い町。
委員は、曳山運行時はもちろん、停止時にも、花の運搬、提灯運搬、高山作業など作業別に細かい役割分担がされています。
また、曳山委員の中に大工、電気屋、鉄工所などが入っており、簡単な修理などが自分たちの町の中でできるようにしているそうです。

10/1朝のスケジュール

4:30	曳山委員集合
5:00	曳き子集合
5:30	曳き出し（町内曳き）
8:00	放生津八幡宮へ

information

祭り当日は公民館を開けています。昔の写真や祭具なども展示してあるので、見に来てね！

曳山こぼれ話 ～古新町編～

電線と人に気を使う。

一番山は何といっても、進むコース取りが大変。高さ、曲がり角、見物客にすごく気を使うそうです。

法被は2種類！

15年ほど前まで、曳き子の法被が100着でも足りないくらいだったそう。襟が黒いのは曳き子、襟が青いのは曳山委員。腹掛け、パッチ、地下足袋も揃いのもの。

花づくりのマニュアル作ったがにだーれも読まん！（笑）

花笠を新調。

色と素材にこだわりました。綿密な計算をしマニュアルまで自作して、委員たちでコツコツつくった、新しい花山、ぜひご注目を。
（写真は古いほうの花）

「神事やからね」

他の町に入るときは本囃子で一番山から、正面から入るのがルール！
曳山の後ろから入ったり、雑曲で入ったりしないそうです。

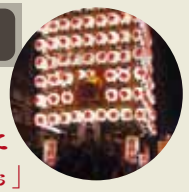
お囃子、三味線あり。

一重山なので幔幕の中にはお囃子が4人しか入れません（太鼓1、笛2、三味線1）。上に鐘の担当が乗ります。

花山

撮影・提供：新湊曳山協議会（2014年）

提灯山



撮影・提供：新湊曳山協議会（2014年）

「提灯付け、本当に上手くなったのぉ」

「一番に停まって花を外し、提灯付け替えができるのに、提灯山の仕上がりが遅いのは恥ずかしい！」ということで、15年ほど前から、色分けや番号の工夫をし、9月最終日曜に提灯付けのリハーサルをしています。以前は罵声と怒号が飛び交っていた付け替え作業が、スムーズ＆スピーディーに！

曳山せんべい

350周年にあわせて、祝儀のお礼として採用。イベントなどでも配布しており、古新町のせんべいはうまいと評判だそう。

1：花山（2009年、撮影・提供：射水市教育委員会）
2：提灯山（2014年、撮影・提供：吉久 磨）

漁師町らしい大舟底山は
くびれがあってスタイル抜群！

奈呉町（なごまち） Nagomachi

その昔、富山湾は「奈呉の浦」と呼ばれていました。

Point 1 船大工が手がけた舟底型

Point 2 お囃子が自慢

Point 3 最大&最新曳山蔵

1692年に創建された、2番目に古い曳山。古くから漁業で生計を立てる人々の多かった町だったので、海に因んだモチーフが満載です。上山が大きく重く、下山がキュッと小さい構造で、花山を正面から見るといかにもかっこよい「舟山」ですが、曳き子が入るスペースが極端に狭く、他町に比べて少人数で曳かねばなりません。いまは昔ですが、他町との騒動など血の気の多い威勢のいいエピソードを持つ町でもあります。

DATA 創建 元禄5年（1692） 再でき 安永4年（1775）

王様 恵比須
漁業の守護神。もとの王様は大黒様だったが、荒屋町の王様であった恵比須と交換した。現在のものは明治28年（1895）矢野光宅の改作。

前人形 唐子遊び
太鼓のバチと獅子頭を持つ、愛嬌抜群の幼児が表現されている。文政2年（1819）氷見の吉三郎の作。

鏡板 浦島伝説、竜宮城
金朱塗り仕上げ。辻丹甫の作。

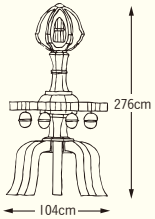
車輪 板車（朱塗り）
数少ない板車。明治40年（1907）新調。直径は164.5cm。

本体 舟底型
明和9年（1772）の設計絵図をもとに奈呉の船大工らが改良。

標識解説

錫杖（しゃくじょう）

通称 たこ



「神徒の鈴」で修験者の杖。諸厄悪災を払う道具。もともとの標識は細長い形状だったが、奈呉町の「奈」の形をかたどり、下部を大きくし、大漁の縁起かつぎでタコの足のように見せている。足は全部で8本。3m以上ある巨大な標識だ。

放生津の宮大工・高瀬輔太郎の作。
明治28年（1895）2月に新調。

奈呉町曳山委員会の
＼みなさんに伺いました／

うちの曳山（やま）が、すーっと角を曲がって来るときの、上の金色のたこ、見てみられ。涙出るほど神々しいんよ。

浜街道を中心に細長く栄えた奈呉町。最盛期は300世帯がひしめき合っていましたが、現在は90世帯弱に。「山蔵ができるのが先か、曳山が壊れるのが先か」と、10年以上お金を積み立て、銀行から融資を受け、待望の曳山蔵が3年前に完成！毎回していた分解と組み立ての手間が格段に減り、曳山の保存・管理がずいぶん安心かつ楽になったそうです。次なる課題は、新調してから100年以上経っている板車のメンテナンス。材料を調達した上での分解・チェックが必要だそうです。

10/1のスケジュール

6:00 曳き出し（町内曳き）
9:00〜23:00 曳山祭り
23:00ごろ〜 町内曳き
25:00まで 山蔵に収納

information

- 標識は9月25日に自慢の山蔵にて組み立てます！
- ここ2年は町内曳きできなかったのですが、今年こそは当日、町内曳きします！

曳山こぼれ話 ～奈呉町編～

くびれてかっこいいけど「なんのせ重たいわ、動かんわ」

上部が大きな作りで、下部がきゅっとくびれてかっこいい形ではありますが、車輪が大きく間隔の狭いこと、車軸が太いうえに最近車軸の心棒を鉄製に変えたので、ますます重くなったそう。心棒を変えたばかりの頃に提灯山用のバッテリー12本を載せていた時は、本当に「くそ重かった」そう。

花は赤一色！

今は、赤、白、黄と3色の花笠が主流となりましたが、昔はどの町の花も赤色だけだったそう。今でも赤一色を貫いているのは13町の中で唯一！

提灯揺らすな、背負ってまわれ。

車軸が太く、車輪間隔が狭く、何より重いため、止まってしまうと動かしずらいとのこと。曲がり角ではゆっくりじわじわと、上体を揺さないよう、曳山の後ろを担ぐように曲がるそうです。

「うちの山のお囃子は空気が違うよ」

聞くのはもちろん、演奏するのも難易度の高い本囃子。習得するにも長い時間を要するため練習が苦痛で途中で挫折する人も少なくありません。奈呉町の囃子方の練習は厳しく、名手に認められ、山に乗るまでに何年もかかる人も。でもその分、祭りの日に音がぴったり合うと、えも言われぬ嬉しさがあるそう。

「今は紳士ばっかりやけど（笑）」

他の町との騒動の記録などからも血の気が多く気性の荒い人がたくさんいた印象の強い奈呉町。「喧嘩したい人いっぱいおったんやろうね。でも、今は紳士ばっかりやけど（笑）」

太鼓は下から

下山の囃子方の入る場所が非常に狭い。太鼓も曳山の下から入れる特注のものだそうです。

車輪から木の擦れる音

車輪の心棒は鉄製になりましたが、その外側に木の枠をあえて噛ませているので、木の車輪と心棒の木の擦れ合う音が楽しめます。重い躯体のせいで車輪のきしむ音も加わっているとか（笑）。休憩の際には世話役らがワセリンを塗り、滑りをよくしているそう。

1：花山（2009年、撮影・提供：中町曳山委員会）
2：提灯山（2014年、撮影・提供：吉久 磨）

遠くからでも、初めてでもすぐ分かる！
世にも珍しい「廻りズッコ（老人）の山」

中町（なかまち）

Nakamachi

昭和の始めは、役所や銀行があった、まさに真ん中の町。

Point 1 とにかく回転する
Point 2 年により松の形変わる
Point 3 車輪が大きい

1692年創建の、奈呉町と並ぶ歴史を持つ曳山。漁師をはじめ海の生業を持つ人々の多かった中町。放生津町年寄（今の市長にあたる）松屋武兵衛が主導し、1796年に再建された特徴的な廻転山です。ほかの町の曳山と違って標識はなく、上山～下山で天上界から地上界までを表現した見事な世界観を持つ曳山です。廻転ばかりに目が行きがちですが、名人・辻丹甫晩年の大傑作と言われており、細部に至るまで見どころの多い曳山です。

DATA 創建 元禄5年（1692） 再でき 寛政8年（1796）

王様 寿老人と松鶴
長寿福徳を祈る七福神の一人。長い頭の老人。

鏡板 枯木の老松
左右には古梅木の絵柄を配する。

車輪 差車（32本）
昭和33年（1958）新調。直径は166cm。

本体 オカグラ式廻転山
もとは他の町と同じような形式だったが、寛政8年、家運絶頂にあった放生津町人の第一人者・松屋武兵衛の主導＆プロデュースで芸術的な廻転山に！

上山解説

オカグラ式廻転山（かいてんやま）

通称 廻転山

京都祇園祭の山笠にあった林和靖山（りんなせいやま）を起源とする形が残されていることが近年判明した。

祇園祭の山笠「月次祭礼図屏風模本」部分
（東京国立博物館所蔵，Image:TNM Image Archives）

中町曳山委員会の
＼みなさんに伺いました／

いい松が手に入らん年は、ほかの町の花山、いつも同じく咲いとって楽やのぉ～と思うとった。

「白足袋通り」とも言われた浜街道沿いの中町は、古くから実業家や富裕層の多い地域でした。文政12年（1829）には約250世帯あったという記録がありますが、現在は約70世帯。昭和の中頃までは商工会議所や市役所、銀行などが集まっていたメインエリアでした。
特徴的な形、毎年の松の調達など、他の12町とはまた違ったご苦労のある中町。3年前に、待望の公民館と曳山蔵が新築完成。蔵と隣接し、バーカウンターもあるので「集まると帰りたくなくなる」町民の憩いの場になっているそう。

10/1のスケジュール

6:00 曳き出し（町内曳き）
9:00～23:00 曳山祭り
23:00ごろ～ 町内曳き
25:00まで 山蔵に収納

information

- 2016年は松を新調。いい松が載せられますように！
- さらに、提灯山の電球をLEDに新調！新たな紅白提灯を見てね！

曳山こぼれ話 ～中町編～

「やっぱ、眺めはいいちゃね」

寿老人と鶴と松のある上山に乗っている人は、電線などをよける役。同じ回転だと酔わないが、急に逆回りになると酔うとのこと。全方位を眺められて気持ちがよい特等席です。

「今の松、松ぼっくりばっかり落ちて来てのぉ」

この曳山を全面的に出資＆プロデュースした松屋武兵衛の象徴・「松」は重要な目印。最近まで毎年調達していたそう。最近は本物の松を用意した後、樹脂コーティングし、数年使えるようにしてきました。直近の松は高さや形があまり気に入っておらず松ぼっくりが大量に落ちてくるという代物。今年新調する松に期待が高まります。ベストは、細長くスッとした3メートル以上の若い松だそう。

提灯山

紅白の提灯。

長い間すべてが白色になったこともあるそうですがもともとは紅白提灯を使っていた中町。平成10年に、現在の紅白のものに戻されました。上の提灯と下の提灯は、別々に組み立ててセッティングするので、他の曳山に比べて手間がかかります。

ひとりでも回せる。

中山には上山を回すための機構があり、小学3～4年生の子どもたちで操作します。この機構は、「一人でも片手でも回せる」非常に軽いもの。右に曲がるときは右廻り、左に曲がるときは左廻りになるとか。「子どもの頃、調子に乗って逆に廻したら叱られたもんよ」廻転する軸棒を飾る六面石には、松屋武兵衛自筆の文字が刻まれています。

テーマはとにかく「まわす」「まわる」！

とにかく、曳山が動いているときは上山を「まわす」のが基本。曳山が停止している時は回しません。また、「まわす」と言えば車輪ですが、中町は差車タイプの車輪ではもっとも直径の大きいもの。また、仲良しの曳山委員さんたちの会話は絶好調で、よく口も「まわる」んですよ（笑）。

花山

1：花山（2011 年、撮影・提供：射水市教育委員会）、2・3：提灯山（2011 年）
4：提灯山にて（2014 年）　★2〜4 の 3 点 撮影・提供：吉久 磨

ゴージャスで勢いのある「千両山」
キラキラの車輪で曲がるのは常に見どころ

新町（しんまち） Shinmachi

東と西、ふたつの町内があります。

Point 1 絢爛豪華な千両山

Point 2 要所・難所で法螺貝の音が

Point 3 人形に様々な逸話

1715 年に創建後、1774 年に新山再建。昨年は記念すべき 300周年でした。曳山は始め、白木のままでしたが、徐々に彫刻、漆工、金工を施し、「千両山」と言われる豪華なものになりました。商家の多い新町の曳山は、向上進取の精神にあふれた町民たちに支えられてきたためか、ゴージャスでアグレッシブ。見応えのある豪華さの分、維持・管理には大変なご苦労をされているようです。

DATA　創建 正徳 5 年（1715）　再でき 安永 3 年（1774）

王様 神功皇后・武内宿禰
神功皇后は、お腹に子を宿しながら朝鮮半島に出陣し、勝利を得たという女性の武神。その子どもは応神天皇で放生津八幡宮の祭神。武内宿禰は300歳まで生きた応神天皇の忠臣。

鏡板 和泉式部
彫り、彩色、精巧な彫金が用いられた逸品！緑漆は再現困難とも。

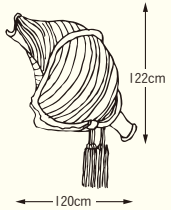
車輪 差車（32 本、二重枠、後光型）
銀 7kg が使われた絢爛豪華なもの。昭和 6 年（1931）新調。直径 156cm。

幔幕 （正面）日の出に櫻
（側面）鹿の跳躍
（背面）雉（キジ）
見事な総刺繍の逸品。現在のものは昭和 8 年（1933）新調。幕押も素晴らしい工芸品。

標識解説

法螺貝（ほらがい）

通称 かいぼぼ



軍陣の指揮に用いた貝。王様の神功皇后に因んで武勇を表す。曲がり角や難所の前にはこの標識に合わせて法螺貝を吹く音も鳴らされる。もとの標識は名工・辻丹甫の手によるもので、竹篭を藻で固めて金箔を置いた漆芸美術の名品。

もとは天明 8 年（1788）、寛政 10 年（1798）再出来、享和 2 年（1802）新調。辻 丹甫作。昭和 32 年・高岡の彼谷芳水が旧形を再現。

新町曳山委員会＆曳き子の方々に伺いました

実は山蔵の周りが最大の難所。朝きつくても夜くたくたでも、曲がらんとならん。ホントは、全部の曳山通したいくらいや。

東新町と西新町の 2 つの自治会で選ばれた曳山担当者によって組織している曳山委員会。現在でも放生津の中心商店街を擁する新町は昔から商家の多いエリアで、天保 8 年（1837）に 441 世帯あったという記録が残っています。今は 120 世帯弱。曳山を解体せずにそのまま収納できる曳山蔵の整備は、新町がもっとも早かったそうですが、クランクのある狭い路地に面している曳山蔵前は、最大の難所とも言える場所になりました。ゆえに、新町の曳山は曲がるのが上手い！とのこと。

10/1朝のスケジュール

5:00　委員・曳き子集合
5:30〜6:00
最初の難所を曲がり、町内曳きの後八幡宮へ

information
- 今年も自慢の車輪をピカピカに磨きます。輝きを楽しんでください。
- かぐら通りで行う余興の獅子舞も見どころです。

曳山こぼれ話 〜新町編〜

「若いもんも年寄りも心意気はひとつ」

曲がり方にこだわる先輩たちの背中を見て育ち、「見たくない時もビデオを見せられてきた」と語る若者たち。うまく曲がれたときの動画を肴に何度も見返しては、にんまりしているそう。「誘導の子が育ってきたんス」…こうして、心意気は次世代へつながっていきます。

「うちのは和紙です」

花笠は、昔どの町も和紙でしたが今はビニール製が主流。新町は和紙製を貫いています。約10年で交換します。昔の和紙は水や汗で花の色がすぐ落ちたため、曳山に乗っている人たちの服が赤やマーブルに染まっていたそうですが、今の和紙は色落ちしません。

目隠ししなくてOK！

朝、放生津八幡宮に集合する際に、他の曳山の王様は目隠しされていますが、神功天皇は八幡宮の祭神・応神天皇の母親であるため、目隠ししないでよいとされています。

新町が13番になると、雨になる!?

曳山の順番が最後になると、応神天皇との再会が遅れて神功皇后が涙を流し、雨になると言われていました。しかし、もとは王様と前人形と一緒に上山に乗っていた「旗持人（はたもちにん）」という人形の頭部（ほかは焼失。頭部のみが現存）を、2 体の人形と一緒に、山宿（5 日前から前日の入魂式まで人形を祀っておく場所。公民館や当番の家など）に飾るようになってからは、13 番でも雨が降らなくなったとか。

「どんだけお金出しても いまは作れんかも」

50 年前、兵庫県宝塚市で開催された「美しき日本博」にも出品されたという、金糸でオール刺繍された幔幕は新町の自慢のひとつ。幕を押さえる幕押さえも普通はピンなどですが、新町のものは細かな昆虫の彫金がほどこされた錺（かざり）工芸の絶品と言われています。以前、京都の美術関係の方が幔幕などを見られて、修理するなら…と驚くほど高額な値段を言われたそうです。

お囃子はプロに。

新町は、町内の囃子方ではなく、「皆川社中」というお囃子のプロ集団が担当。

1：花山（2014年、撮影・提供：新湊曳山協議会）
2：提灯山（2011年、撮影・提供：吉久 磨）

八幡宮の門前としての誇りと落ち着き
13本中、一番大きくて重い「でか山」

ひがしまち 東町 Higashimachi

放生津八幡宮を擁する一番の門前町。

Point 1 もっとも大きい
Point 2 落ち着きある山
Point 3 鶏がいっぱい

1717年に創建。放生津八幡宮は東町にあり、一番の門前町でもあります。年間を通じて八幡宮とのつながりが強く、秋季例大祭の一部、神事としての曳山の存在を強く意識している町です。
もとの曳山は高さが10mもある三重山でしたが、電線にひっかからないよう現在の8.8mにまで切り下げ、軽量化もされてきました。しかし、依然として13本の中でもっとも大きく重い曳山です。

DATA 創建 享保2年（1717） 再でき 天明3年（1783）

王様 尉と姥（じょうとうば）
夫婦愛と長寿を愛でる松の精。住吉神をかたどっている。

前人形 三番叟（さんばそう）
能「翁」の舞に続いて舞う役

鏡板 鹿を伴う寿老人、鶴に椀を捧げる童子、老松
穏やかなテーマ。吉祥に満ちている。

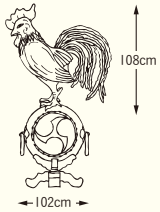
車輪 差車（32本、後光型）
現在のものは昭和29年（1954）新調。直径は160cm。

幔幕
（正面）町名
（側面）諫鼓の鶏と瑞雲
現在のものは平成20年に57年ぶりで新調。

標識解説

諫鼓の鳥（かんこ とり）

通称 にわとり



「諫鼓」とは、中国の政治に関して、人民らが指摘や提言をする際、打ち鳴らすための太鼓。あまりに善政で誰も太鼓をたたかず、最後は鶏の巣になったという故事に基づく。平和の象徴。東にあるので一番鳥の意味も。もともとの標識は錨（いかり）だったが明治期に変更された。

明治10年（1877）、「四ツ爪錨」から「諫鼓の鳥」に新調。

東町曳山保存会の
＼みなさんに伺いました／

八幡宮と曳山は、常に一体。目に見えんでもつながっとる。引き継いだ重くてでかい宝物、ちゃんと次につながんならん。

東町東部、東町西部、倉屋敷の3地域の代表者で構成される東町曳山保存会。保存会長と総代は兼務で、経験豊富な70代が主体となって曳山の世話役を担っています。
最盛期は330世帯ほどありましたが、今は220世帯ほど。放生津のなかで最も古い町のひとつで、昔から商いの町でもありました。
また、放生津八幡宮とともに歩んできた門前町として、曳山祭りだけでなく9月30日～10月3日の例大祭全体をひとつの祭りとして強く意識していることが伝わってきます。

10/1朝のスケジュール

4:30	曳山委員集合
5:00	曳き子集合
5:30	曳き出し（町内曳き）
8:00	放生津八幡宮へ

information
2016年、車輪以外を大幅に修理しました。ピッカピカで曳けます！

曳山こぼれ話 ～東町編～

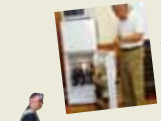
「金具少ないけど凝っとるつくり」
金属の飾りは控えめで、彫刻や彩色が細密な東町の曳山。彫刻のモチーフは、故事に忠実に再現されており、絵柄の中の登場人物が読んでいる本の内容までちゃんと筆で書き込まれているという凝りようです。

極力、安全に！どろくさくまわれ！
大きくて重たい曳山は扱いづらく、危険性も高い。だからこそ安全に巡行するための誘導技術やノウハウが東町には詰まっています。「うちの山は軽々しく廻らない、廻れない」と、自分たちの曳山をよく知った年長者たちが必ず周りで確認し、世代間の意思疎通を図りながら、安全な巡行に努めています。

4日間全部で一つの祭り
八幡宮の祭礼の一部として、曳山を意識している東町の人々。わが町の話よりも13町全体を俯瞰し、現在から過去・未来への思いが語られる場面が多くありました。

「落ち着いとる」
東町の曳き子の中心はもちろん若者ですが、50代の人も少なくありません。また、総代などの世話役も"曳山歴50年"という比較的年長者の多い、落ち着きのある山です。

前に東町がいるとラク。
これは、東町以外の12町の方々が口を揃えて言っていたこと。一番大きな曳山の後ろなら、コース取りが安心だとか。



今日は酒、少ないのぉ。

必ずお酒を飲む。裏話に本音がある
曳山も自治会も、様々な練習や準備作業にも、絶対にお酒をかかさないようにしているそう。飲むと本音が出るし、やはり世代間、住民間の交流の基本。「八幡宮の行事だって"直会（なおらい）"までが一式やろ？若い衆が一所懸命練習しとる横で、ちびちびやるのがいいんよ」とのこと。
※曳山巡行中の飲酒はNGです。

花山

「川によう落ちとる」
明治32年（1899）、重すぎたため西橋を破って川に落ち、大破損。これ以外にも似たようなエピソードがいくつかあります。また、標識の鶏が何かにひっかかって落ちたという話もよく聞かれます。それだけ大きくて重い曳山だということですね。

1：花山、2：提灯山（どちらも2014年、撮影・提供：新湊曳山協議会）
3：鏡板（2010年、撮影・提供：射水市教育委員会）

クールかつマイペースな穏便派。
曳山のことは一通りできるオトナが多い

四十物町（あいものちょう）

地元の人たちは「あいもんちょう」と呼びます

Aimonocho

Point 1 控えめな山

Point 2 映画で大注目！

Point 3 独自の囃子譜面

1718年に創建。再来年が300周年となります。町の規模は小さいながらも、限られた人員と予算の中で様々に工夫して曳山を維持してきました。2016年1月に公開された内川が舞台の映画『人生の約束』では、四十物町の名前が全国に露出しました。中間を意味する四十物。穏やかに語る担い手たちからは、伝統や誇りを重んじつつも、現実に即した合理的な方法を常に探る柔軟な姿勢を感じることができます。

DATA 創建 享保3年（1718） 再でき 天保3年（1833）

王様 菊慈童
700年も児童の姿を保つと言われる中国の長寿の仙人

前人形 三番叟（唐子人形）
右手に鈴、左手に扇を持つ

鏡板 武内宿禰の海中投玉図
武勇を象徴する絵柄。海に因むモチーフが散りばめられている。

車輪 差車（32本、後光型）
もとは鉄の飾り付けの板車。現在のものは高い副輪がついている。

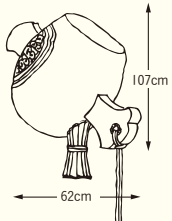
幔幕 打出の小槌を引く唐子

欄間 高欄、中高欄などには、花鳥や動物の彫刻・彫金が配置

標識解説

打出の小槌（うちでのこづち）

通称 こづち



毎日千人に財宝を与えたという大黒様が持つ宝の槌。勤労と財宝を表している。もともとの標識は王様の菊慈童に因んで、不老長寿の水がめだったが、「かめ」の音を嫌って、明治中期に現在の打出の小槌に改められた。

明治の中頃に新調。金箔仕上げ。

四十物町曳山委員会
＼ 総代のおふたりに伺いました ／

曳山のお世話も配線も修理もぜんぶ自分で。誰が抜けても動かせるように、いつ総代になってもいいように。

東町と中町の間町（あいのまち）にできた町。鮮魚と干物の中間の加工物を四十物と言いますがそれを扱う家も多かったそうです。文政12年（1829）は260軒余りあった家々も現在は40軒ほどに。「いつ総代がまわってきてもいいように自分ごととして曳山に関わる」ために、町内5つの班から2名ずつ選出された曳山委員の中から輪番で曳山総代2名を選んできました。昨年から再任を妨げなくなったので今後少し雰囲気は変わるかもしれません。現在熱望しているのは、解体せずに収納できる山蔵。

10/1のスケジュール

6:00 曳き出し（町内曳き）
9:00〜23:00 曳山祭り
23:00ごろ〜 町内曳き
26:00まで 山蔵に収納

information

- 2016年、電球をLEDに！
- 祭り当日は公民館でトイレ休憩も可。映画「人生の約束」の関連展示もする予定です。

毎回、標識と上山は分解し、公民館の2階と日吉神社の後ろの山蔵に収納してます。

曳山こぼれ話 ～四十物町編～

花山

『四十物町曳山物語』

平成15年、町内出身の橋詰博一さんが執筆・発行された『四十物町曳山物語』は、曳山のバイブル的存在。

「うちのじいさんが吹いた笛を見ながら、土合のばあちゃんがつくった譜面」

四十物町のお囃子は、笛2人、太鼓は中高生、鉦は小学生が担当。昭和40年代に、オリジナルで作られた譜面が、ちゃんと引き継がれているので、当時の音がキープできているそう。ただ、番号で書かれているため題名が分からない。本囃子は12番までしかありませんが、大太鼓が3つ入る曲は、他の町にはないそう。幔幕の中から外の状況が分かればすばやく演奏曲を変えられるので、囃子方用に今年からモニターを設置するそうです。

全国にグッズが！

映画『人生の約束』のグッズとして、四十物町の湯のみや手ぬぐい、法被などが全国で販売されました。
伊藤総代は嬉しくて全商品購入！

撮影・提供：新湊曳山協議会（2014年）

できるだけインコース。そして自然にまわれ！

低くて軽い山なので、安全に曲がるためにするとインコースにゆっくり舵を切ります。ガーッと廻るのはかっこいいのですが、「おらえておらえて」すっとまわります。曳き子がいない時は10人ほどで曳いていたこともあるんです。

「欄干のスズメ、よう飛んでいきます」

欄干の枠の間には全て形の異なるスズメの彫刻が。下からも見えます。いつの間にか取れてなくなってしまったものも。「よう飛んでいきます（笑）」

お疲れ「かけ中」あり。

曳き子たちは、町内の「室谷食堂」で、曳き終わって片付けた後、新湊名物「かけ中」かうどんが食べられるそう。解体して片付けねばならず深夜2時ごろまでかかるそうですが、「かけ中」の効果で、残って手伝ってくれる曳き子さんが増えたそうです。

1：花山（2014年、撮影・提供：新湊曳山協議会）、2：提灯山（2014年、撮影・提供：吉久磨）、3：前人形（撮影・提供：大橋英治）

町民の思いが結実した、
カラフルで軽やかな雰囲気の山。

三日曽根（みっかそね） Mikkasone

最初は、三日曽根村の出村で「田町の山」と呼ばれました

1721年創建。この年の祭礼は、浪害で大破した放生津八幡宮の再建を慶び祝うもので、8本の曳山が出揃い、一層賑々しいものとなりました。もとは放生津町と三日曽根村の間にできた出町でしたが、だんだんと住民が増え町の勢いが出てきた頃に曳山が作られました。明治時代の火事で再建することとなり、当初は白木のシンプルなものでしたが、長い時間をかけて少しずつ装飾を加え現在の姿に進化しました。

DATA 創建 享保6年（1721） 再でき 昭和24年（1949）

王様 布袋
七福神のひとり。辻丹甫作。太っ腹で大きな袋を持つ。

前人形 唐子懸垂廻転
唐子が懸垂するからくり人形

鏡板 唐子越後獅子
もとは極彩色の和泉式部御所絵だったが新町と交換し現在のものに。

車輪 差車（32本、後光型）
車輪の直径157cm。2011年の巡行中に破損したため翌年修復。

幔幕 遊ぶ唐子
幕押さえは和同開珎の七宝細工

宝珠 七福神の彫刻
中高欄の宝珠は、王様の布袋を含む七福神の彫刻。

Point 1 カラフルで賑やか

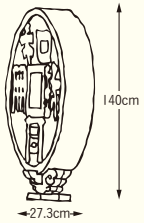
Point 2 唐子がいっぱい

Point 3 少しずつ装飾して現在の姿に

標識解説

和同開珎（わどうかいほう）

通称（特になし）



「和同開珎」は、わが国で鋳造された最古の流通貨幣で、貯蓄財宝による町の発展を表す。「珎」は「寶(宝の旧字)」の略字。

作者：矢野茂　塗り：沢米峯

三日曽根曳山保存部のみなさんに伺いました

壊れる、引っかかる、事故る。自分の町の曳山じゃなくても、自分だったかも！って、肝を冷やす。山町の人間ならね。

呉服屋から魚屋、勤め人までまんべんなくいろんな業種の人で構成された三日曽根。昭和25年頃は約320世帯、現在は200世帯弱。比較的人数の多い町です。
曳山部（実動部隊）と曳山保存部（維持管理部隊）で構成されている部員は合わせて100名程度。コアメンバーは30名ほど。総代は概ね3期6年の任期です。点検だけで数百万円かかる曳山。5年後に300周年を迎えるので、漆の塗り替えや金具の磨き上げ、王様の修復などをしたいとのことです。

10/1朝のスケジュール

3:30 部員集合
4:00 安全祈願
5:00 曳き出し〜八幡宮へ

information

- 9月18日に、子ども曳きをしています。
- 10月1日の祭り当日は、公民館のトイレを開放しています。

曳山こぼれ話 〜三日曽根編〜

「囃子聞いたらもう飯食わんでもいい」

囃子方の練習は9月第2土曜日から公民館で始まります。高校生〜70歳くらいまでの幅広い世代が曳山で演奏しています。「囃子聞こえてきても、大人やからしれっとしとるけど、実は身体の中で血湧き肉踊っとるんよ」…多くの人がそうらしいです。

折れたスポークとってあります

撮影・提供：新湊曳山協議会（2014年）

「頭真っ白。1時間震え止まらんだ」

5年前、車輪の輻（や：スポーク）が折れ、車輪が外れた三日曽根。曳き分かれの直前、角を曲がったところで、ケガも物損もなかったのは今考えれば奇跡でした。「八幡はんの前で分解してトラックで一晩かけて山蔵に戻り、クレーンで吊って蔵に入れた。他の町の人たちも、香具師の人たちもいろいろ助けてくれた。あの時は頭真っ白になったし、本当に大変だった」と、総代の西さん。これが教訓となり、文化財保護の観点から市と協力して、各町で車輪の点検・修理が進みました。予算が限られていても、事故を未然に防ぐためにメンテナンスが大事！ということを改めて認識できた機会となりました。三日曽根はこれがきっかけで、部員たちの仲がさらによくなったとか。こういう経験も、地域の財産ではないでしょうか。

びっくりするほど子どもが来る。

撮影・提供：大橋英治

祭り1週間前に、子ども曳きを行っています。新たな好例行事になりつつあり、驚くほど人が来るそうです。子どもたちだけでも、人数が多ければ曳山は動くそう。「まっすぐには行かんけどね（笑）」

「提灯付け、ひどてひどて」

3年前、提灯山のやぐらを新調して、提灯山の付け替えが格段にスピードアップしました。「それまでは先頭の山が出てく時にようやっと付けられとった。休憩もできんし、ご飯も食べられんかった」やぐら新調に併せ電球もLEDに変更。曳山に積むバッテリーが13コから2コに、重さは300kgほど軽くなりました。
途中で切れることもなくなり、提灯山の巡行はずいぶん楽になったそう。

1時間10分もかかっていた

花山

「おかげで、またみんな仲い〜なってしまって」

1：花山（2014 年、撮影・提供：新湊曳山協議会）、2：提灯山（2009 年）
3：王様と前人形（2010 年）★2・3 の 2 点とも撮影・提供：射水市教育委員会

とにかく目立つ赤と金。若い担い手たちがつながり、守る山

立町（たてまち）

浜往来へ「タテ」に入る町

Tatemachi

Point 1 もっとも古い

Point 2 とにかく真っ赤と金

Point 3 若き担い手たち

1721 年に創建。できたのは 8 番目ですが、火災や浪害などを受けずに現在に至っているため、13 本中最古の曳山です。日吉社の氏子町であるため、神の使者・猿が前人形になっています。他町の世話役たちは 60 代前後が中心ですが、世帯数の少ない立町では、若い世代が世話役の中心になっています。大きな宝物を次世代につないでいくために、守るものと変えるものがあることに気づかされます。

DATA 創建 享保 6 年（1721）

王様 孔子
中国の聖人。儒学の開祖

前人形 猿公
名工・矢野啓通の秀作。猿の皮を張り付けたあやつり人形。

鏡板 太公望
ビクに寄りかかり、瞑想にふける図

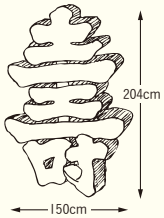
幔幕 壽（猩々緋に金銀刺繍）
昭和 61 年（1986）新調。

車輪 差車（32 本、後光型）
もとは黒塗りの蠟（ろ）色仕上げに飾り金を施した板車。昭和 31 年（1956）、海老江の中町山に譲渡。今は海老江で保存されている。

標識解説

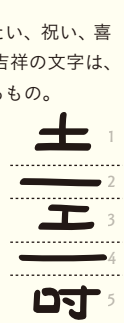
ことぶき
寿

通称 ことぶき



「寿」の旧字。めでたい、祝い、喜び、長寿などを表す吉祥の文字は、町の発展を祈念するもの。

2 メートルにもなる大きな文字は 5 つのパーツに分かれており、組み立て式となっている。



塗り：室谷繁安

立町の曳山総代のお二人に伺いました

新しい法被になったらバイトしてでも自分で買うっていう若い曳き子もおる。そいつらに色、決めてもらいます。

東放生津地区に縦に伸びた立町は、昔から飲食店や商店の多い"商いの町"。ゆえに祭りの日でも休めず曳山に参加できない方も少なくありません。30〜40 年前は 120 軒以上あったそうですが今は 40 世帯弱に。そして若い担い手が頑張っている町でもあります。60〜70 代の団塊の世代以降、50 代が空白で今の総代はどちらも 40 代。石田さんは 10 年前、最年少で総代になりました。曳き子の多くは立町に所縁ある町外の若者たち。小さな町で曳山を維持するためには若者、よそ者、ばか者の力が必須です。

10/1朝のスケジュール

4：00	世話役集合（後山の場合）
4：30	曳き子集合
	〜町内曳き
7：00	八幡宮で並ぶ

information

2016 年、法被を新調。真っ赤な生地に金糸の刺繍。今までよりも丈が長くてかっこいいやつに！

曳山こぼれ話 〜立町編〜

撮影・提供：射水市教育委員会（2009 年）

絶対に前の車輪を止めるな

前の車輪が動いていたら、他の車輪に負担をかけずに少ない力で廻れることから、曲がるところでは「前曳く者は前をひたすら押せ」と指示しているそう。比較的軽い山なので、大勢よりもコツのわかった少人数の方が扱いやすい。「ほんとは肩入れて、ぐっと浮かせば、キュッと曲がるんやけど、体中あざだらけになるからねー」「それに上手く曲がるがと暴走は紙一重やから…」と、曳き子がバテてしまわないよう、安全に巡行できるよう、常に気を配っています。

山がコンパクトな分、標識を大きくした

狭い路地を行くので、小さめの山。その分、標識はかなり大きく作られています。「字は組み立て式。一番上の"土"が入れにくての〜」日吉社の裏手にある曳山蔵は、全部がそのまま入らないので、どんなにへとへとでも標識をバラさないと入りません。

古い型の一重山。「提灯つけんとごはん食べれん」

古新町と同じく一重山。花山から提灯山への付け替えは二重、三重山よりも手間がかかります。世話役や曳き子たちみんなで役割分担して早く付け替え、ごはんを食べるようにしているそう。

塗りと螺鈿（らでん）

比較的小さくて軽い立町の曳山。コンパクトな分、装飾にこだわりが。朱塗りの高山は立町のみ。塗りは城端の小原治五右衛門の手によるもの。

「立町やから、焼き鳥弁当」

立町には人気焼き鳥チェーンの店舗があるため、夕方のお弁当は焼き鳥弁当だそう。若い曳き子たちには幕の内弁当より、焼き鳥弁当が人気！最高 4 つ食べる人もいるとか。

昼はすり身汁。

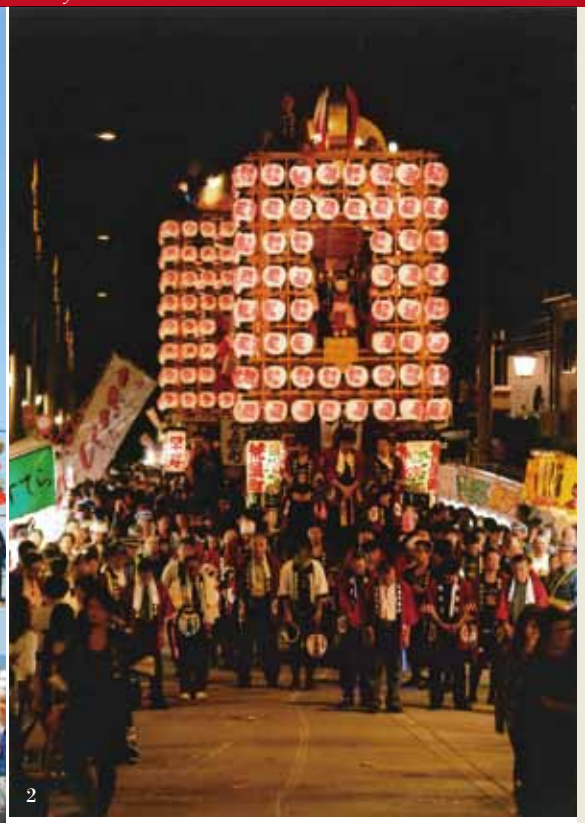
昼は町の女性たちの協力で 20 年近くすり身汁を出してもらっているそう。「今年は豚汁になるかも」とのこと。

お揃いの石札

去年からオリジナルの石札を制作。黒い石に「壽」と自分の名前の入ったもの。（希望者のみ）

花山

撮影・提供：新湊曳山協議会（2014年）



1：花山（2007年）、2：提灯山（2011年）★2点とも撮影・提供：西野 信一

キラリと光るセンスと迫力。
総ケヤキの材を活かした白木のままの山

荒屋町（あらやまち） Arayamachi

農業主体の荒屋村の出町として栄えました

Point 1 総ケヤキの山
Point 2 一番新しい
Point 3 迫力ある誘導係

1770年創建。もともと漁業が盛だった荒屋村は、徐々に農耕を主とする村へと変わりました。標識や王様などに五穀豊穣を祈るモチーフが多用され、「米俵山」と呼ばれたのもそれが所以かもしれません。2度の火災で焼失・再建しており、作られた年代としてはもっとも新しい曳山。中国の故事などの絵柄を装飾・彩色したものが多いなか、越中国守・大伴家持と越中万葉を鏡板にした白木の山に、ひと味違うセンスを感じます。

DATA 創建 明和7年（1770） 再でき 昭和27年（1952）

王様 大黒天
七福神の一神で打出の小槌を持つ。五穀豊穣を祈る。

前人形 唐子三童子
唐子が懸垂。からくり人形

鏡板 大伴家持の歌、家持像
「みなと風寒く吹くらし奈呉の江に妻よび交し田鶴さわになく」
奈呉の江（富山湾）にのぞむ荒屋の風景にふさわしい絵柄

幔幕 千枚分銅と唐子遊び

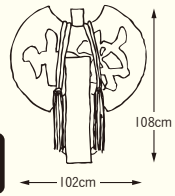
本体 大ケヤキの一枚板

車輪 差車（32本、後光型）
平成25年(2013)解体修理。
直径は155cm。

標識解説

千枚分銅（せんまいふんどう）

通称 せんまい



「分銅」は、金銀をはかりのおもりに鋳造し、いざという時のために供えた財宝のこと。「千枚」は数の多いことを表す。創建当初、燦然（さんぜん）と輝く標識は、各村々や沖の舟からも望めたそうで、荒屋山の誇りだった。

もとは明治末期に海商の南島間作が寄付した真鍮張りのもの。昭和27年に新調。
木工：武野芳雄、金箔：仏師木元

荒屋町曳山委員会の
＼みなさんに伺いました／

花作りながら話に花咲いとる。たくさんの人が集まって、わいわいやるのが祭り。祭りはもう始まっとるんよ。

もともと荒屋村出町として栄えた荒屋町。東部の方はもとは沼地で農業も盛んでした。昭和25年には441世帯あったという記録が残っていますが、今は200世帯ほど。
荒屋本町、荒屋東部、倉屋敷の3自治会の代表が委員会を構成しています。自治会、婦人部との連携もよく、曳き子も大勢集まる荒屋町。しかし「担い手も曳き子も減っている。このままでは近い将来、維持が難しくなる」と感じています。"自分はいいや"と思っている人たちにこそ、未来を変える力があるのかもしれません。

10/1朝のスケジュール

5:00 曳き子集合
6:00 曳き出し
→放生津八幡宮へ
→町内曳き

information

- 2016年、花傘を9年ぶりに新調!!
- 翌日10/2は、山蔵を開けています。お囃子の生演奏しています！

曳山こぼれ話 ～荒屋町編～

撮影・提供：射水市教育委員会（2011年）

漆塗ったら、もったいない。

総ケヤキの厚い板で作られている荒屋町の曳山。「漆塗ってある山は木が軽い。うちの山は、白木がいいんよ。漆塗ったらもったいない」…でも、材が立派な分、曳山は重くなります。最低30人くらいは曳き子が必要だそうで後ろの長手は長めです。

女性部に感謝。

9年ぶりに新調する花笠の花を開く作業は、曳山委員だけでなく町の女性たちにも力を借りて行われていました。「女性部にはほんとにお世話になっとるんよ。祭りの当日、朝4時に集合して、みんなにこにこして小さいおにぎりつくってくれるんよ」

標識は上げ下げできる

前の総代が鉄工所をしていたので、心棒は鉄製に。併せて標識を上げ下げできるようにしてあります。提灯山のときは結構下げられますが、花山は鏡板の上まで下げられます。

「うちの提灯山、まだ電球です」

提灯山の灯りをLED電球に変えた町が多いなか、荒屋町はまだ白熱電球です。バッテリーをいっぱい（12コ）積まなければなりませんから、曳く方も準備する方も大変ですが、観客としては暖かい色の光彩が楽しめていいですね。

「四隅のバクは、本当はゾウやった」

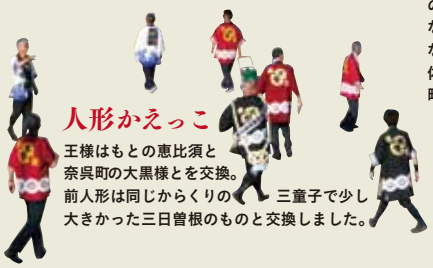
2度の火事で焼失したことから、再できは昭和27年と新しい曳山。実際に関わった職人さんと話をしたことのある人も。「若い頃手伝ったという大工さんに話聞いたら、四隅の獏は本当は象にするところを、鼻の分、材が足りなくて今のようになっとるらしい」

オリジナル本囃子

本囃子の6番が独創曲でオリジナル。先代の囃子方が「はごろも」と命名しています。本囃子は長年聞いていても聞き分けることの難しいものです。お囃子は曳山にとってはなくてはならないもの。「囃子方がおらんかったら気分も盛り上がらんから力も出ん。山も動かん」

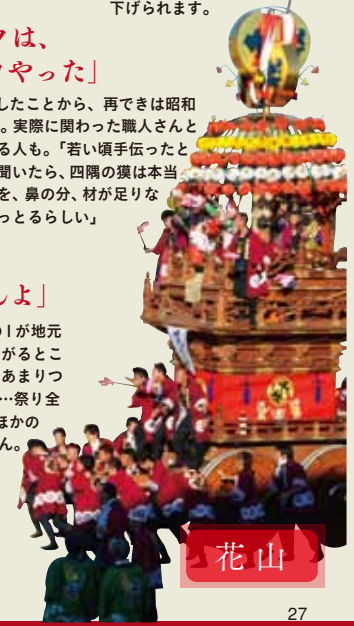
「ぶらぶら隊が出てくるんよ」

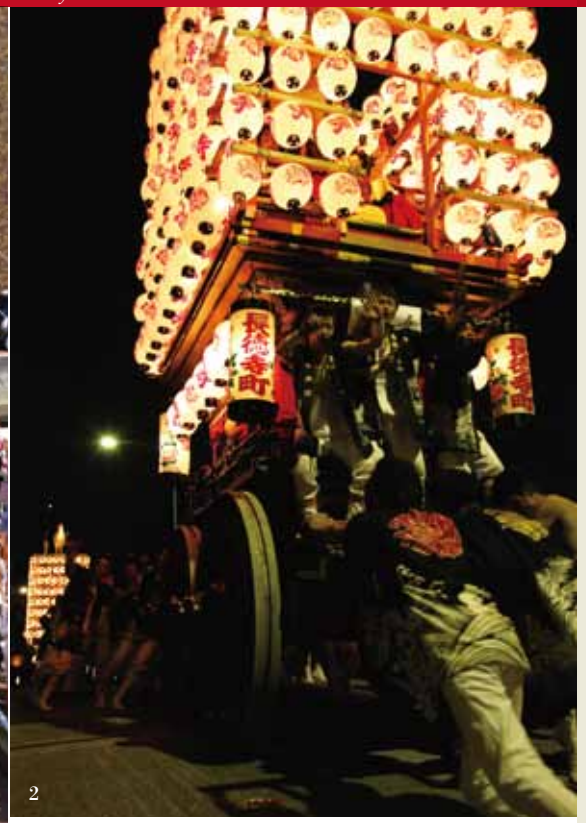
曳き子は毎年80人くらい。そのうち3分の1が地元の子たちだそう。「荒屋は人が多すぎてつながるとこないから、ぶらぶらする人が出てくる。でもあまりつながったら足と足が絡んで危ないからね」…祭り全体としては曳き子不足の傾向にあるなか、ほかの町からするとうらやましい話かもしれません。



人形かえっこ

王様はもとの恵比須と奈呉町の大黒様とを交換。前人形は同じからくりの三童子で少し大きかった三日曽根のものと交換しました。





1：花山（2014年、撮影・提供：新湊曳山協議会）
2：提灯山（2012年、撮影・提供：吉久 磨）

先人たちの悲願は世代を越えて
「さんがのやま」と呼ばれ親しまれる

長徳寺（ちょうとくじ）

「長徳寺浜町」と呼ばれたエリアです（北長徳寺）

Chotokuji

Point 1 一番遠いエリア
Point 2 チョウづくし
Point 3 1週間前に町内曳き

1773年頃に創建。漁業や海運業に携わる人の多かった長徳寺。曳き出しの際には、まず漁民義人塚に参拝し、お神楽をあげ、義人の霊を慰めるのが慣例となっています。1807年の大火で町が全焼して以来、曳山の再建が開始されたのは1872年、その8年後に待望の曳山が完成しました。先人たちの悲願が結実し、再びもたらされた宝物は、老若男女が大切にメンテナンス重ね、愛着を深め、今に伝えられているのです。

DATA 創建 安永2年（1773）頃　再でき 明治10～11年（1877～1878）

王様 神武天皇
日本神話に登場する第一代天皇。もとは老子で日清戦争後に変更。

前人形 唐子遊び
奈呉町のからくり人形を模した

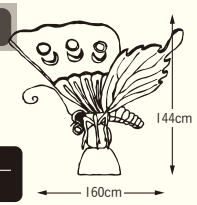
鏡板 イザナギ、イザナミが天の浮橋より下界を見渡すの図

車輪 差車（32本、後光型）
もとは板車。直径は152cm。

幔幕 揚羽蝶
もとは朱無地のラシャ。大正13年（1924）、緋色の塩瀬織に蝶を金糸で刺繍した現在のものに。幕押さえも蝶の彫金である。

標識解説

蝶（ちょう）



通称 ちょうちょ

蝶はアゲハチョウ。長徳寺の「長」を象徴している。蝶が野に舞う様子は平和、安穏、のどかさの表現でもある。材料はイチョウの木を使い金箔貼りに仕上げたもの。「チョウ」が幾重にもかかり、超シャレの効いた標識である。

もとは明治35年（1902）棚田徳三郎作。昭和30年（1955）に現在のものに新調。
作：利波 定次郎、荒谷 外次郎
塗り：室谷 繁安、中山 友次郎

長徳寺曳山委員会の
＼みなさんに伺いました／

組み立てと片付けの姿が祭りの本来の姿やと思う。曳山に愛着あれば、外れたことはせんもんや。

漁師を始めとした漁業や、舟を持って"能登通い"をする人々が多く住んでいた長徳寺。北長徳寺自治会が長徳寺曳山委員会を構成しています。昭和25年には300世帯以上ありましたが現在は120世帯ほどに。
14年前に新しい公民館と山蔵ができましたが、それまでは毎回、町の老若男女で組み立て・解体を行ってきました。今でも4～5年に一度はブルーシートを広げ、総出で部材を拭いたりチェックしたりします。長老たちは「曳山への愛着はこういう作業から」と語ってくれました。

10/1のスケジュール

6:00　曳き出し（町内曳き）
9:00～23:00 曳山祭り
23:00ごろ～ 町内曳き
28:00まで　山蔵に収納

information

- 海王丸の総帆展帆の日は山蔵を開けています。
- 祭りの1～2週間前に、町内曳きと子ども曳きを実施しています。

曳山こぼれ話 ～長徳寺編～

「八幡はんまでいっちゃん遠い」（いちばん）

今の蔵ができるまでは組み立て・解体をしていたので朝5時に藤の宮から曳き始め、夜は町内曳きをしてから解体していたので翌朝4時くらいまでかかることもあったそう。電球をLEDに変える前に、湊橋でバッテリーが切れ、真っ暗な山で帰ってきたときは、本当に危なかったそうです。

「一番だやくなったときに歌う」（つらく）

今は統廃合されてなくなりましたが、旧新湊西部中学校の校歌は、長徳寺の人たちにとっての"力歌"。湊橋の手前などの難所や休憩時によく演奏されます。曳き方、囃子方のあうんの呼吸で始まるそうで、夜のほうが聞ける率が高いそう。

地元の仏壇やさんの力作

金箔だけで50万以上するという標識の蝶。10年ほど前、箔を貼り直した後に、自転車屋さんのウィンドウに飾って見てもらったことがあるそう。

「25歳できっちり終わり。後はつんからつんからやった」（次から次に）

今の曳き子は高校生から40代前半の人までいるそうです。もともと町に住んでいた人や現在の町民の同級生・友人などでほとんどが顔見知り。でも、昔は、25歳になるか結婚するかしたら、次々に後続がいたので、曳き子も青年団も卒業だったそう。

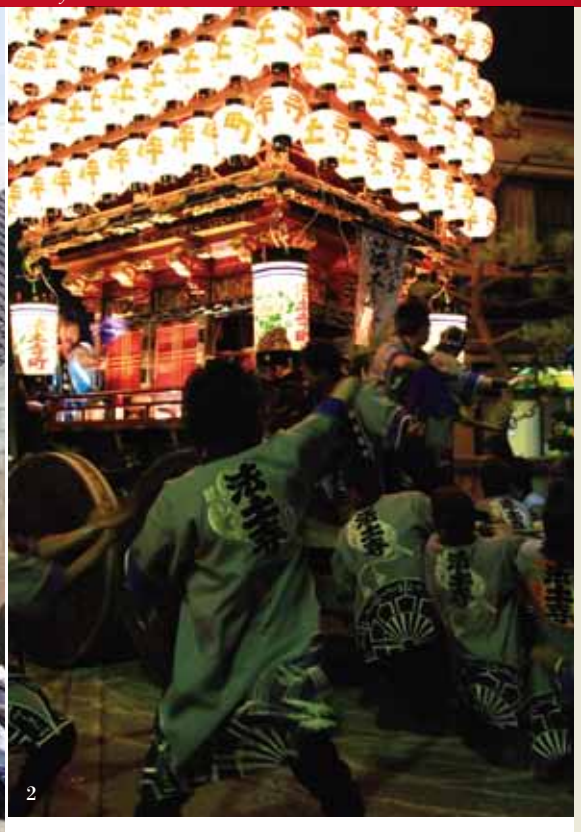
「藤見橋の下に沈めとった」

今は、車輪の心棒は全町鉄製ですが、昔はみんな木製で、よく折れました。巡行中に折れてもすぐ対応できるよう、長徳寺では藤見橋の下に沈めていたそう。「昔の心棒ここにあるはずやと思って見に行ったら、確かにあったけど、虫食って、まんで、影も形もなくなっとったわ（笑）」

花山

「蔵、よう開けとる」

海王丸の総帆展帆、元旦マラソン、旅行社からの依頼などで蔵を公開しています。西日が当たらないよう9:00～15:00ごろまで。



1：花山（2014年、撮影・提供：新湊曳山協議会）
2：提灯山（2014年、撮影・提供：吉久 磨）

町内の職人たちの手で守られてきた
彩色彫刻の美しい仏壇のような山

法土寺町（ほうどうじまち）

山王橋〜東橋
左岸のまち

Hodojimachi

Point 1 彩色彫刻仏壇山

Point 2 唯一の障子戸

Point 3 町民のDIY精神

創建年の詳細は不明ですが、明和年間（1764〜1771）には既に曳かれていたそうです。1810年の大火で町が全焼し曳山も焼失しましたが、15年後には再び新造。小さな町ではありましたが、大工や建具屋、塗師などの専門技術を持つ人が住んでおり、限られた戸数で様々な工夫をしながら、美しい仏壇山を維持してきました。過去から現在、そして未来へと、町内外の人たちの力を結集して曳き続けてほしいものです。

DATA 創建 明和年間（1764〜1771）以前 再でき 天明5年（1785）

王様 関羽・張飛
もとは劉備玄徳もいたが、山体を低くしたので2体にしたそう。

前人形 猿公
鈴と扇子を持つからくり人形

鏡板 鐘鼎文を説くの図
鐘鼎文は古銅器に刻んだ文字。二代目・辻 丹甫作。

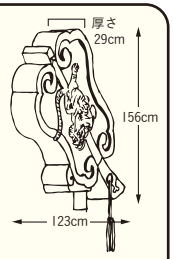
車輪 差車（32本、後光型）
もとは板車。直径は153cm。

欄間
（横欄間）実石榴（みざくろ）と胡錦鳥（こきんちょう）、
（〃下桁）松、雲、鳩
（縦欄間）獅子の子落とし
いずれも辻 丹甫作。

標識解説

軍配団扇（ぐんばいうちわ）

通称 ぐんばい



「軍配」は、天下泰平・四海安泰を祈る平和のシンボル。武将が戦場での陣頭指揮をするためや、相撲の行司が勝敗の決定を示すために使うもの。
竜と虎の浮き彫りに金箔塗りで仕上げてある。

もとは高瀬竹次郎作。
昭和48年（1973）に現在のものに新調。
木型：加門 甚一　塗り：桧物 弘

法土寺町曳山委員会の
みなさんに伺いました

大事なもんは自分たちの手でちゃんと守らんとね。様子見て先送りばっかりしとってちゃ、だめなんよ。

舟を持って"能登通い"をする人々や商店、大工や建具屋などの職人も多く住んでいた法土寺町。最盛期は100世帯強、現在は50世帯弱の小さな町では、昔からDIY（Do It Yourself）精神旺盛な町民たちが、力を合わせて曳山を支えてきました。
今の山を、少しでも長く後世に伝えるために、耐震構造の山蔵を作るというのが、委員たちの一番の命題。戸数も人材も少ないためかなりの金銭的負担が必要になるので、積み立てを開始したそうです。

10/1のスケジュール

6:00　曳き出し（町内曳き）
9:00〜23:00 曳山祭り
23:00ごろ〜 町内曳き
28:00まで　山蔵に収納

information

2016年、40年ぶりに車輪を修理しました！9/11に曳山に取り付け、9/18に試し曳きをして、当日に臨みます。

曳山こぼれ話 〜法土寺町編〜

なぜか脇役が残った。

三国志で有名な劉備、関羽、張飛。「生まれた時は別々でも死ぬ時は一緒に」と義兄弟の誓いを結んだという有名な話のある3人ですが、山体を低くした時に、入りきらないからと、なぜか劉備が外され、忠臣であった関羽と張飛が残されました。

日吉社の裏に山蔵、大集合！

日吉社の裏に法土寺町の山蔵ができたのは昭和37年（1962）。すでに55年近くが経過。この蔵ができる前は、毎回、組み立てては分解していましたから、建設当時はかなり画期的でした。法土寺町のほか、四十物町、立町、紺屋町の山蔵が並んでいます。この山蔵に収納する際は、上の標識を取り、心棒を下げます。

小さいけれど町内DIYができる町。

大掛かりな修理は市外の職人さんに頼んでいますが、町内の人たちで曳山を修理したり改造したりできた法土寺町。下山の障子戸は建具屋の宮島さん、高山高欄は大工の八嶋さんと塗師の桧物さんの手によるもの。提灯山のやぐらも町内でつくったそうです。

花山

「ばばいす、かつけた」

（屋根石、ぶつけた）

昭和7年（1932）、法土寺町と奈呉町の2年越しの大騒動がありました。「ばばいす（屋根石）、相手の曳山にかつけた（ぶつけた）って、町の長老から聞いたことある。うちの町も喧嘩っ早かった。今は"そよ"と曳いとるけど、昔の人はもっとガーッて曳いとったわ」

「ジジィはもうつながらんでもいい！と思うとるのに、思わずつながってしまうんよ」

「荒屋地内の曲がりにくいところに行ったら、わしらみたいなもんも、思わずつながって押したり引いたりしてしまうんよ」と姫野さん。生まれてからずっと曳山に関わってきたからこそ、どうしても血が騒いで、手が出てしまうのだそうです。

中山に乗れて、初めていっちょまえ。

50年前は、力持ちで甲斐性がないと自分の町の曳山にすらつながることができないほど、たくさんの若者がいました。20歳になっても「お前まだ身体小さいから乗れん。待っとれ」と言われ、指をくわえて見ていたこともあったそうです。「中山は晴れの舞台」だったのですが、最近は、中山に乗りたがらないクールな若者も増えたとか。

1：花山（2014 年、撮影・提供：新湊曳山協議会）
2：提灯山（2014 年、撮影・提供：吉久 磨）

少数精鋭と強力助っ人による「紅屋町組」が旦那衆の心意気を引き継ぐ

紅屋町（こんやまち）

Konyamachi

昔は紅屋（染物屋）も。商家と寺のまち。

Point 1 川の駅に常設展示

Point 2 19軒で持つ山

Point 3 初心者もつながれる（要事前申込）

1721 年に創建。裕福な旦那衆がいたので、小さい町ながら曳山を持てました。狭い路地の多いエリアだったため、最初の曳山はかなり小さなもの。そこで明治期に入ってから、町内の名匠・高瀬竹之助一門が、山体や彫刻などの一切を手がけて再建しました。世帯数 19 の少数精鋭の町民たちが、町外の人々の協力を得ながら全力で引き継いで来た金ピカの曳山は、「川の駅新湊」内の山蔵に常設展示されています。

DATA

創建 寛政元年（1789）　再でき 明治 13 年（1880）

王様 日本武尊（やまとたけるのみこと）
日本の伝説上の英雄。もとは中国の漢高祖だったが日清戦争で変更。

前人形 巫子（からくり人形）
もとの唐子人形から変更

鏡板 悪魔退散の図
鉄拐仙人が鉄鉢に香を焚き悪魔退散の図

幔幕 千鳥と水波

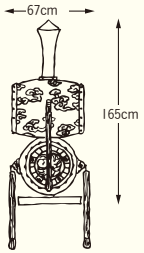
車輪 板車
春慶塗りの板車

昔の曳山 板車
以前の曳山は、蓮花寺（高岡）に譲渡。現在も 10/21 に公開されている。

標識解説

振鼓（ふりこ）

通称（特になし）



文字通り、振って鳴らす鼓。刀剣が貫通しているため「剣太鼓」、2 つ重なっているため「重ね太鼓」とも言われた。鼓には、こぞって（全員で）楽しむという意味がある。剣は悪魔を鎮めるという意味がある。

嘉永 7 年（1854）、一回り大きく作り替え。昭和 54 年（1979）、旧標識を受け継いだ海老江・中町山とともに称号を「振鼓」に統一。

紅屋町曳山委員会のみなさんに伺いました

毎年来てくれる助っ人たちは、準町民みたいなもん。紅屋町が一番！っていう思いはみんな一緒なんよ。

最盛期でも 50 軒しかなく、現在 19 軒となった紅屋町は寺と商家の町。このうち寺 3 つ、病院 1 つという、極端に町民の少ない町です。所縁ある近隣の農村から曳きに来る助っ人が紅屋町の曳山巡行を支えてきました。曳山の維持管理、修理などの費用は、人数が少ない分町民ひとりひとりの負担も大きいものです。小さい町ながら多大なる出資と協力を集められるのは、町内外を問わず「紅屋町の曳山が一番だ！」「紅屋町の曳山を守りたい！」という強い思いを持つ人々がいるからなのです。

10/1朝のスケジュール

4：00	世話役集合（後山の場合）
4：30	曳き子集合
	～町内曳き
7：00	八幡宮で並ぶ

information

・9/30 の19：30 ごろから、山蔵で恒例の宵祭りを開催します。曳山せんべいとお酒を振る舞います。

曳山こぼれ話 ～紅屋町編～

助っ人が支える曳山

創建当初から少人数で守ってきた紅屋町の山。町内にある長栄寺は町から4kmほど離れた津幡江地区がルーツ。ここからの助っ人が、代々曳き子となって紅屋町の曳山を支えてきました。今は国道を挟んですぐの獅子絵田地区の獅子方のメンバーが、曳き子の中心として活躍。昔は助っ人を見分けるため、背中に標識マークの入った町民用の法被に、そのマークを隠すように、「紅屋町組」という布を縫い付けていたそう。7 年前、「川の駅新湊」に隣接する曳山蔵の完成に合わせて、藍染めの法被を新調。以来、町民も外から来た助っ人も同じ「紅屋町組」を背負って曳山につながっている。

新しいこと好き

どの町も昔は、曳山を全部解体して土蔵などに納めていました。標識だけを取り、あとはそのまま入れられる蔵を作ったのは紅屋町が一番早かったそう。ビニール製の花笠を導入したり、祝儀の返礼に曳山せんべいを渡すようになったり、他町に先んじてやったことが少なくありません。さすが商人の町！

来る人、拒まず

外部の人を受け入れることに慣れている紅屋町。初めての方でも予約・登録すれば、人数限定ではありますが曳山につながることができるのは大きな魅力です。危険なところなどでは曳けませんが、北は北海道から南は沖縄まで、時には外国人もつながったそう。

中山のディテール

中山には十二支の装飾が。六歌仙の絵と歌の細かな彫金も自慢！

「真っ暗な中、花山で戻ってくるのがせつのぉて」

今から40年ほど前のこと。提灯山で事故を起こし、約 7 年間自粛したことがありました。もう曳きたくてムズムズしていたので、その後 5 年間は 1 年おきに「せめて花山だけでも」と曳かせてもらうことに。最初は久しぶりに曳けたことが嬉しかったけれど、これから盛り上がる夜の部に参加せず、他町の提灯山を横目に紅屋町だけ花山で帰ってくるのは本当に切なかったそうです。

「山って、曳かんだら、腐るんよ」

曳山を蔵に入れたまま何年も経過した頃「曳かずにいると整備もできないし湿気もたまって腐ってしまう。いっそのこと欲しいところに売ってしまえば」という話まで出たこともあるとのこと。この話が、映画『人生の約束』に出てくる "曳山譲渡" の元ネタになったとか。

姿が映る板車

春慶塗りの板車を修理。自分の姿が映る光沢にほれぼれ！

花山

1：花山（2014年、撮影・提供：新湊曳山協議会）
2：提灯山（2012年、撮影・提供：吉久 磨）

積年の思いとたゆまぬ努力で
今も進化し続ける、シンミチの山

南立町（みなみたてまち）

Minami-tatemachi

地元の人は「シンミチ（新道）」と呼びます

Point 1 13番目の山

Point 2 多彩なアイテム

Point 3 Mr.曳山！草さん

1862年創建。13番目にできた、もっとも歴史の浅い曳山です。町ができてから、曳山を持つのが夢だった町民たちは、お金を出し合い、ときには町の老女らが麻糸を紡ぐ内職をしてまで、建造費を貯めました。町民たちの執念でできた曳山は「シンミチの山」と呼ばれるようになります。各家からさらに募金を集めて積み立て、その度に修理や改善を重ねて、美しく豪華な曳山へと進化してきました。

DATA 創建 文久2年（1862）

王様 住吉大明神
海上安全の守護神。もとは豊臣秀吉だったが変更。

前人形 唐子遊び（からくり人形）
獅子舞を持つ。矢野啓通作。

鏡板 武内宿禰が応神天皇を抱く図
創建当初は松の合わせ板だったが、昭和27年（1952）の改修でケヤキの一枚板に変更された。

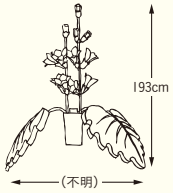
幔幕 五三の桐、唐子
創建当初は無地。五三の桐の金刺繍のみの時代が長かった。

車輪 差車（32本、大八車）
もとは板車。昭和35年（1960）新調。直径は150cm。

標識解説

五三（ごさん）の桐（きり）

通称
（特になし）



もとの王様が豊臣秀吉だったため、豊臣家の家紋「五三の桐」を標識にしている。葉の上の花の数により、「五三の桐」「五七の桐」と呼び名が変わる。桐は昔から神聖なものの象徴であり、日本政府の紋章や500円硬貨にも使われている。

昭和49年（1978）に新調。同じ形の標識を持つ高岡・二番町の山車を参考にした。
細工：加門甚一、塗り：室谷繁安

南立町曳山保存会の
みなさんに伺いました

「一番いい曳山（やま）に！」が合い言葉。町のみんなでお金出し合って、直して直して、"いいがに"なった。毎日、頭のなか、曳山色（やまいろ）やちゃ。

江戸時代の末、立町の南にできた新しい町。漁師や"能登通い"（舟による運搬業）のほか、大工や農家もいました。昭和25年の記録には149戸とありますが、今は65世帯ほど。曳山保存会と自治会の役員は同じ。自治会長の草さんは曳山保存会長でもあります。町では毎年100万円を積み立て、5年に一度の頻度で曳山の補修を重ねてきました。8年前、約2700万円をかけ、待望の山蔵も完成。毎日曳山のことばかり考えているという草さんは「葬式には山蔵開けてお囃子で送ってもらうんや」と笑います。

10/1朝のスケジュール

5:00 曳き子集合
6:00 曳き出し（町内曳き）
8:00 放生津八幡宮へ

information

多彩なアイテム！2016年の采配は、夜、なんと七色に光ります！

曳山こぼれ話 ～南立町編～

幻の一番山に！

2005年、お祭りの直前（9月29日）の大火で不動の一番山・古新町が巡行しないことになりました。この時二番山だった南立町。急きょ一番山を務めることに。「一番山ちゃ、なんちゅー気持ちのいいもんかと思った！でも、緊張したし、大変やった。古新町さんが平然といつも一番山やっておられるのが、どんだけすごいことか、改めてわかったわ」

「昔の標識は段ボールに金箔貼ったようなやつやった」

町としての成立が1848年の南立町。曳山を持つ他町がうらやましく、早く欲しいという執念で、各家から少しずつ小銭を集め、町建てから14年で念願の山町となりました。しかし資金不足のまま間に合わせで作ったので、材料や細工の質はあまりよいものではありませんでした。町民たちは毎年お金を出し合い、積み立て、少しずつ改良や修理を重ねてきました。

「毎日、山蔵の戸開けに行っとる」

湿度が高ければカビるし、低ければ割れるし…暑い時は特に心配で、丁度よい湿度と温度になるよう、毎日山蔵を見に行っているそうです。

ハタキではなく采配

中山・高山に乗る人は他町のようなハタキではなく采配を持ちます。ハワイアンの腰蓑と太鼓のバチを使った、草さんお手製のもの。夜は電気もつきます。

花を"ほんわり"させるための、花ひらき職人

「本当はみんなで手分けしてやるのがいいんやけど、器用な人もそうでない人もおるから花の大きさがバラバラになってしまうんよ」…ということで、南立町のほんわりとかさ高の花は、町内の花ひらき担当（最近、世代交代！）が、基本1人で行っているそう。花の交換はおよそ10年に1回ですが、150個の花を"ほんわり"させるにはかなりの根気とコツが必要ですね。

チンチコスイッチ

祝儀の返礼で演奏するお囃子「チンチコ」。外の人が中山の囃子方に幕をめくって指示するのは格好悪いということで、外でボタンを押すと、中で照明がつき回転するスイッチを設置。

アイテムにこだわる

長手の補助棒まで春慶塗り。ロープ1本にまでこだわり、王様の着替えもあるほど。また、提灯山のLED電球は念のため2回路にしているそう。

新湊 放生津 曳山 さんぽMAP

2016年 新湊曳山祭の巡行ルート

花山巡行ルート

【放生津八幡宮】(出発式)
→ 東町 → 荒屋町 → 四十物町 → 中町
→ 奈呉町 → 古新町 → 長徳寺 → 三日曽根

提灯山巡行ルート

【新湊庁舎裏】
→ 新町 → 紺屋町 →法土寺町 → 南立町
→ 立町 →【放生津八幡宮】(曳き別れ)

巡行ルートは1年おきに交替

曳山は、一番山の古新町を先頭に、一列となって13の曳山町をまわります。内川をはさんで南北の町で、交互に「前山」と「後山」を務めることとしており、それに合わせて巡行路も入れ替わります。**今年、花山が通った町は、翌年は提灯山が通るよう**、ルートが設定されています。

★ 最新ルートの確認は、射水市観光協会(☎: 0766-84-4649)まで！

地域の歴史・文化の中核的存在

放生津八幡宮

746年、奈呉の浦(現在の富山湾)の情景を愛した大伴家持が、豊前国宇佐八幡神を勧請して奈呉八幡宮と称したのが起こり。地域の歴史・文化の中核を担っており、「何を置いてもまずは八幡はん」と、地元民から広く信仰を集めています。

祭神：誉田別命※1、大鷦鷯命※2
祭典：春祭 5月15日／秋祭 9月30日～10月3日
※1：ほんだわけのみこと／応神天皇　※2：おおさざきのみこと／仁徳天皇

三ケ新の道標
白山宮
漁民義人塚
円立寺
北長徳寺
賢泉寺
北長徳寺公民館
長徳寺曳山格納庫
古新町
古新町曳山格納庫
古新町公民館
茂八橋
藤見橋
内川
神明社
西橋
奈呉の浦大橋
湊橋
光正寺
小川おさんの碑
中町曳山御蔵
奈呉町
奈呉町曳山御蔵
新湊保育園
本町一丁目
提灯山出発 18:30ごろ
西宮神社
西新町神明社
三日曽根神社
新西橋
気比住吉神社
覚正寺
新湊保育園入口
射水商工会議所
射水市役所 新湊庁舎
三日曽根曳山御蔵
本町
往還寺
新町
中の橋
中町
金刀比羅神社
新湊消防署
専念寺
円徳寺
大佛寺
浄蓮寺
東新町諏訪社
万葉線
カモンショッピングセンター
三日曽根
四日曽根の諏訪社
新湊高校
射水市 新湊庁舎前駅
大石橋
新町曳山車御蔵
射水ケーブルネットワーク
新湊中部保育園
中央町
交番
浜
二上山(銅管)(左川)
立山(高周波)
田んぼ
北
西
東
南
日本銅管(現・JFEマテリアル株式会社)のこと
日本高周波工業株式会社富山製造所のこと
曳山の進行方向の誘導は、浜、田んぼ、立山、二上というかけ声で行われます
かぐら通り前
新町口駅
新湊小学校
四十物町公民館
紺屋町曳山御蔵
四十物町曳山格納庫
皇太神宮
秋葉社
四十物町
新湊漁港
新湊漁港緑地公園
天満宮
神楽橋
姫野病院
山王橋
さんがの湯
東町曳山格納庫
川の駅 新湊
常教寺
神明社
光照院
魚取社
放生津八幡宮
東町
善行寺
大楽寺
妙蓮寺
日吉社
長栄寺
紺屋町
法土寺町
内川
地蔵院
本誓寺
光明寺
光山寺
稲荷社
曼陀羅寺
東橋
勝光寺
八幡保育園
本隆寺
義常教会
新湊天満宮
愛宕社
八幡公園前
立町
南立町
荒屋町
放生津橋
放生津橋
西福寺
荒屋神社
八幡町
長朔寺
放生津小学校口
越の湯
南立町曳山車御蔵
立町曳山格納庫
法土寺曳山格納庫
荒屋町曳山格納庫
二の丸橋
東新湊駅
放生津小学校
花山出発 9:00ごろ

2016年8月7日に行われた『鬮取り式』にて決定した、この年の曳山番付。

歴史ヒストリアチーム、とっておき！

もっと曳山を楽しむ方法

1 山蔵は宝庫!!

曳山を収納する山蔵（格納庫）は、さながら町の曳山資料館!! **紺屋町**は曳山を常設展示していますが、**長徳寺、南立町**などはイベントや要望等に合わせ山蔵を一般公開しています。お祭り1〜2週間前の土日は、ほとんどの山蔵で準備作業が行われます。もし、扉が開いていたらラッキー！一声かけて、ぜひ見せてもらいましょう！

2 儀式や作業も見どころ!!

10月1日以外にも、いろんな行事や作業のある曳山。一番のオススメは9月30日の**宵祭り**。各町で曳山のお祓い・入魂式が行われた後、来訪者にふるまいをする町も少なくありません。**三日曽根**や**長徳寺**は9月25日ごろに町内曳き・子ども曳きを行っています。8月の大安に行われる**闔取り式**も、拝殿の外からの見学はOKです！

3 フダンの曳山愛を探せ!!

儀式やイベントに遭遇できずとも、“町の人たちが常に曳山を愛している気持ち”は至る所で見つけられます。この辺りの飲食店や店舗なら、ポスターやカレンダー、曳山模型などがほぼ100%、年中飾られています。曳山のことが好きすぎて、一般住宅にも看板やステッカーが貼られていることも。さあいくつ見つかるかな!?

さらに「放生津曳山祭り」を楽しむために

白い法被にご注目を。

溢れ出る曳山愛と豊富な経験値

新湊曳山協議会

各町の総代と、長年の曳山関係者らで組織されている協議会。曳山**祭り当日は白い法被**を着ているので一目瞭然！**総代**は、町ごとの曳山の巡行総責任者。各町から2名ずつ選ばれます。**顧問、会長、副会長、理事、相談役、事務局長**は、各町の総代経験者など長年世話役をしてきた経験豊富な人々。祭り全体を見渡し安全な巡行・統制を行う役割です。※5ページ上部に組織概要説明あり。

2016年は、初の試みとして、曳き子全員に放生津八幡宮で祈祷した木札を用意。安全かつ一体感のあるお祭りになりますように。

2016年1月に全国公開された映画『人生の約束』の撮影に全面協力体制で臨みました。この地域の財産とも言える素晴らしい作品に感謝!!

まだまだあります！

曳山のコネタ

町の床屋さん、大いそがし！

約10年、紺屋町の曳き子をしている買場さん。お仕事はスーツ姿ですが、床屋でバッチリ刈り込んで、キリリとしました！

年に一度の祭りの日は、曳き子さんにとっても晴れ舞台。やはり、髪の毛はオシャレの基本！ということで、祭り前日・当日は、町の床屋さんが大忙しなのです。散髪をする人は前日まで、リーゼントの場合は当日の早朝からセットする人が多いとか。リーゼントにする場合は、6月くらいから髪を伸ばし始めないと間に合わないそう。また「曳山にはやっぱり黒髪が一番似合う」ということで、金髪などの明るい髪色や、ツンツンに立てた髪型などをすると、町の大人たちから確実に叱られます。

奈呉町の若い子らは、リーゼントするとき油性ポマードつけてくれっていうんよ…。雨にも強いけど、洗ってもなかなか落ちんやつ。

協力：
ひろはら理容院（奈呉町）

小学生からお囃子に親しむ

お囃子の演奏を通じて地域の歴史・文化にふれられる小学生のクラブもあります。放生津小学校は「まっつんクラブ」（写真上）、新湊小学校は「曳山囃子クラブ」（写真下）。それぞれ、お囃子の名手たちが熱血指導をしています。

14番目の山、0.5番目の山

延宝4年（1676）年、古新町の曳山のできた26年後、八幡宮の例大祭に曼陀羅寺より曳山が出たという記録が残っています。また、昭和25年（1950）には、四日曽根町が14番目の曳山を完成させました。一度だけ曳かれたという幻の曳山ですが、写真が残っています。

山蔵に無事帰った時が、いちばん好き。

各山町の世話役の方々に、祭りの中で一番好きな瞬間を聞くと、ダントツでこの答えが返ってきました。事故もなく無事に帰ってきて、山蔵に入れてからがお酒の一番おいしい時間だそう。祭りが終わった夜中、感慨深げに山蔵を眺める人がいたら、大役を果たした総代や世話役の確率が高いです。

あとがき

約3ヶ月にわたり、13町の世話役さんらを始め、曳山が大大大大大好きな方々にお話をうかがいました。どの曳山にも町民の思いと歴史がパンッパンに詰まっていて、今年も美しく勇壮に、そして安全に山を曳くために日々、様々なご苦労と工夫をされていることがわかりました。最も心に残ったのは、みなさんが驚くほど謙虚で紳士だったこと。心躍り憧れながら曳山を眺めた子どもの頃から、青年になって実際に曳山に“つながり”、ある程度の年齢で裏方になって日々のお世話役に…。歳と経験を重ねながら曳山に関わって来られたみなさんは、一言でいうと、“できた人”ばかり。多くが総代経験者だったからかもしれません。敬神崇祖の気持ち⇔町民らの期待に応えたい気持ち、見せ場⇔危険な場所、陶酔⇔それを自制する心…相反するものを一旦全部飲み込んで、謙虚かつ冷静に判断をしながら、仲間と山を導いてきた人々。そのお話は、どれも面白くて深い教訓に満ちていました。放生津の人々は、目に見えない力やつながりを、曳山を介して学び、身体の一部にしてきたのだと思います。茶目っ気があって奔放な人が多いのに、驚異的にまとまりがよい理由は、これだったんだ！と目からウロコが落ちました。

撮影・デザイン・編集：明石あおい